

慶應義塾大学学術情報リポジトリ  
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	仙台市民図書館蔵『沙石集』抜書本 翻刻・上
Sub Title	
Author	上野, 陽子(Ueno, Yoko)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	1999
Jtitle	三田國文 No.30 (1999. 9) ,p.50- 71
JaLC DOI	10.14991/002.19990900-0050
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19990900-0050">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19990900-0050</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 仙台市民図書館蔵『沙石集』抜書本 翻刻・上

上野陽子

現存はしていないという<sup>①</sup>。

・旧蔵者 仙台市民図書館以前に本書を所蔵していたのは岡氏。

岡氏は儒学者の家系で、代々仙台藩で書記役を務めた<sup>②</sup>。本書に「岡氏蔵書」の朱印がある。岡氏六代目正介は本書が書かれた享和二（一八〇二）年の三年後に没している。七代目藏治、八代目台輔は学に通じ、本書が蒐集に熱心だったと言われており、<sup>③</sup>両者いづれかの代に本書が所蔵に加えられたのではないか。

・本文 全六十四丁。一丁表裏：白紙、二丁表／五十八丁裏：

『沙石集』抜書、五十九丁表／六十三丁裏：「雜聞」

（「雜聞」の内容は『沙石集』とは関係なし）、六十四丁表：奥付、六十四丁裏：白紙。

・年代、抜書者 奥付に「于時享和二戌年二月彼岸會第一日書写之／仙府南鍛冶町／円乗坊照寛的」とある。南鍛冶町は仙台市若林区に位置する。照寛については未詳だが、円乗坊は里修験を行なう者達が集まつた仏堂の名で、

今回は『沙石集』卷一より卷六に当たる箇所（前半部）を翻刻する。

本文は底本になるべく忠実になるよう努めたが、旧字体・異体字等は通行の書体に改め、私に句読点・括弧等を補い、改行を加えた。底本に丁付けは記されていないが、私にすべて同筆。一丁につき十行。和歌のみ漢字平仮名交じり文、その他すべて漢字片仮名交じり文。

（ママ）は記していない。

（1オ）のごとく丁数と表裏の別を略記し、底本に一行分の空きがある箇所には（一行アキ）と記した。底本では本文の上部余白に話の題名が記されているが、紙面の都合上、題名を【】に入れ、本文と同じ高さに記した。同様に、底本では本文の上部余白に記されている「〇」を本文と同じ高さに記した。また、

本書の紹介・翻刻をご許可いただいた仙台市民図書館に厚く  
御礼申し上げます。

注

- (1) 仙台市民図書館郷土資料室の御教示による。  
(2) 注1に同じ。  
(3) 『鹿門岡千匁の生涯』(宇野量介著・岡広発行 一九七五年一二月) 参照。

【和光ノ事】

昔役ノ行者吉野ゝ山奥ニ在シケルニ、釈迦如来ノ像現シ玉ヒケレハ、「其御形ニテハ此界ノ衆生ハ化シ玉フ事難カルベシ。隱サセ玉ヘ」ト被<sup>レ</sup>申ケレハ、次ニ弥勒ノ御形ヲ現ジ玉フニ、「猶是モ叶フマジ」ト被<sup>レ</sup>申ケレハ、重テ釈迦如来、藏王権現トテ恐ロシゲナル御形ヲ現シ玉ヒケル時、「是ニテコソハ我国ノ能化」ト申玉ヒケリ。釈迦劫尽ノ時ハ夜叉ト成テ無道心ノ者ヲ取食フテ、人ヲ勸テ道心ヲオコサセ玉フ。是レ和光ノ方便ヨリ仏法へ引入玉フトナリ。実ニ慈悲ノ方便善巧、漢土ノ孔老、和国ノ上宮太子等、皆是和光ノ慈悲ノ化儀也。(一行アキ)

【神明ハ慈悲ヲ貴玉フ事】

和州三輪ノ常觀上人ト云シハ、慈悲有人ニテ蜜宗ノ人也。結縁ノ為ニ普ク真言ヲ人ニ授ケケリ。或時獨リ吉野ヘ參詣シケルニ、路ノ辺リニ幼キ子供三人并ビ居テサメ<sup>ム</sup>ト難クアリケレハ、何トナク哀レニ覺テ子細ヲ問フニ、十二三計ノ女子中様ハ「私共(2オ)母上惡キ病ヲシテ死ニ侍ルガ、父ハ遠クヘ行テ候ハズ。人ハキタナク思テ訪フ者モナク、我身ハ女子也。弟共ハ児<sup>ヲナ</sup>クシテ云申斐ナク候ヘハ、唯悲サノ余リナクヨリ外候ハズ」トテ涙モカキアエズ。実ニ心中サコソト哀レニ覺ヘケル専ニ、今度ハ先ス神詣ハヤメテ此者ヲ見助ケテ重テ又參ルベシト思ヒ、野辺ヘ葬シ陀羅尼ナンド唱ヘテ懇ニ弔ヒ、扱三輪ノ方ヘ帰ントスレトモ身スケンデ歩レズ。ナレトモ垂跡ノ御咎メモ恐シケレハ神詣ハ叶フマジト思ヘトモ、コ<sup>ト</sup>ロミニ吉野ノ方ヘ向テ歩メバ、何ノ事モナカリケリ。其時扱ハ参レトノ玉フ事ニヤト心ヲ取直シ、參詣スルニ別ノ子細ナシ。乍<sup>レ</sup>去恐モアレハ、御殿ヨ

リ遙カナル木ノ下ニテ念誦シ、法施ヲ奉リケルニ、折節神主ニ  
神付キテ舞踊リケルガ、頓テ走り出テ、「アノ御坊ハ何者ゾ」  
トノ玉ヒケリ。扱コソ浅間シヤ、是迄参ルマジキ者ヲ御トガメ  
ニヤト恐レ思ケルニ、近付寄テ「御坊此程ヨリ待タリ。ヲソク  
御出候ゾ。吾ハ物ヲバイマヌ也。慈悲コソ貴ト(2ウ)ケレ」  
トテ袖ヲ引テ拝殿ヘ具シ玉ヒケレハ、上人余リノ嬉シサ添サ貴  
ク覚ヘ、墨染ノソデヲシンボル斗也。扱法門共申ウケテナク、  
下向シ玉フト也。

### 【神ハ菩提心ヲ発スヲ喜玉フ事】

又古ヘ性蓮坊ト云上人、母ノ骨ヲ以テ高野ヘ収メニ参ケル  
ニ、人皆此事ヲ知テ宿カス者ナシ。然ニ大宮ノ南ノ門ノ脇ニ参  
籠シタル夜、大宮司ノ夢ニ大明神ノ御使トテ神宦一人来テ「今  
宵ハ大事ノ客人ヲ得タリ。能々モテナセトノ仰ニテ候」トノ玉  
フト覚テ夢サメタリ。使者ヲ社壇ヘ遣シ、「通夜スル人ヤアル」  
ト尋ネケルニ、此性蓮坊ノ外人ナシ。使者帰テ此由ヲ申。扱ハ  
トテ此僧ヲ我家ニ請スルニ、「我ハ母ノ骨ヲ持テ候ヘハエ参ル  
マジ」トテ辞退シケルニ、「大明神ノ御告アレハ私ニ忌ニ及ハ  
ズ」トテモナヒ行、様々ニモテナシ、馬鞍迄用意シテ高野迄  
送リケルト也。神明ノ御心ハ何レモ替ル事ナシト見ヘタリ。或  
人、日吉ヘモ遁世ノ者、死人ヲ持ナカラ供養シテ頓テ参リケル  
ヲ、神主(3オ)制シケレハ、御託宣在テ御ユルシ有ケリトナリ。  
昔三井寺山門ノ為ニ焼払ハレテ堂塔僧坊仏像経巻残リナク焼失  
シケル故ニ、山僧モ山野ニ住居、寺僧一人モナカリケル中ニ、  
一人新羅明神ヘ参テ通夜スル僧アリケルニ、明神御戸ヲ開テ世  
ニモ御心地ヨゲニ見ヘ玉ヘケレハ、夢ノ中ニテ申様、「我カ山

ノ仏法ヲ守ント御誓有ケルニ、如レ此ニナリシ事、如何計リ御  
歎キモ深カラント存候ニ、其御氣色モナキ事ハ如何ニ」ト申ケ  
レハ、「実ニ争カ歎カザランヤ。去レトモ此事ニ付テ真実ノ菩  
提心ヲ発ス僧一人有ル事ノ喜シキ也。堂塔仏經ハ財宝サヘ有レ  
ハ作ルヘシ。菩提心ヲ発ス人ハ千萬人ノ中ニモ求メ難シ」ト被  
仰ケルト夢見テ、今ノ僧モ弥々強盛ニ発心セント也。然ハ今生  
ノ事ヲ祈シハ本意ト思召サズ。神慮ハ唯真実ニ未来ヲ願フヲ  
ソ喜ヒ玉フ也。(3ウ)

### 【因果ハ難遁事】

古ヘ叡山東塔ノ北谷ニ極ノ貧僧有テ、日吉ヘ百日参詣シテ祈ケ  
ルニ、「相計フベシ」ト被仰ルゝ示現ヲ蒙テ喜思テ居ケルニ、  
或時闇ノ事ニ依テ年来ノ住馴寺ヲ追出サレテ寄方モナクナリ  
ケル久ニ、西塔ノ南谷ノ坊ニ漸ク同宿シケリ。抑ノヘ示現ヲ蒙  
テ後ハ、恋人ヲ持ツ如クノ心地ニテ居タリシニ、サシタル事ナ  
キノミニ非ズ、坊迄追出サレ面目ナク思テ又参籠シテ祈誓申程  
ニ、示現ヲ蒙リケルハ「前世ツタナクシテ少モ福分ナキ故ニ、  
東塔ノ北谷ハ寒キ坊ナレハ、西塔ノ南谷ノ暖和ナル坊ヘ出シタ  
ルゾ。是コソ小袖ツツノ恩思ヒ計フタレ。此外ノ福分ハ我カ  
力ノ及ブベキニ非ズ」ト被仰ケリ。是ヨリハ思ヒ切テ祈リ不  
申。前世ノ業因ノカレ難キハ、仏神ノ御力ニモ不レ叶。サレハ  
神力モ業力ニ不レ勝イヘリ。仏ノ御在世ニ、五百人ノ僧瑠璃太  
子ニ打レケルヲ、釈尊モエ助ケ玉ハズ。目連進出テ、神通ヲ以  
救フベキ由ヲ申上レトモ、仏(4オ)免シ玉ハズ。「釈尊ノ御  
親類ナレハ如何ナル神通ヲ以テモ助ケ玉フヘキ者ヲ」ト人々不  
審申ケレバ、其不審ヲハラサセん為ニ、一人ノ僧ヲ御鉢ノ中ヘ

入テ天上へ隠シヲキ玉フニ、余ノ釈種ノ打レケル日、自然ト御鉢ノ中ニ死デ居タリ。其因縁ヲ説玉フニ、「五百ノ釈種ハ昔五百人ノ網人也。一ツノ大魚ヲ海中ヨリ引上テ害シタリシ故也。其大魚ト云ハ今ノ瑠璃太子也。我ハ其時童子タリシガ、草ノ葉ヲ以魚ノ頭ヲ打タリシ故ニ、今日頭甚痛ム也」ト被仰テ、釈尊モ其日御惱ミアリケリト也。況ヤ凡夫ノ身トシテ因果ノ理リ遁ルベキヲヤ。又利軍子比丘トイケルハ、羅漢ノ聖者也ケレトモ、余リニ貧クシテ乞食スレトモ施ス者ナシ。仏袁ニ思召、塔ノ塵ヲハカセ玉フニ、其日ハ其福分ニテ乞食ヲ得タリ。或曰朝寝ヲシテヲソク起ケレハ、余ノ比丘是ヲハキケリ。其后乞食スルニ得ズシテ、七日ノ間食セズテ、沙ヲ食シ（4ウ）水ヲ飲テ餓死セリ。仏因縁ヲ説玉ヒケルハ、「過去ニ於テ母ニ不孝ニシテ、母カウヘテ食物ヲ乞ケル時、砂モクヒ水ノメカシト云テ、七日食ヲ与ヘズシテ母ヲ干害シタル業也。聖者トナレトモ猶報フ也」ト説玉フ。斯ル因縁ナレハ、貧ク賤キモ難ニ逢苦ニ逢モ我昔ノ咎也。世ヲモ人ヲモ恨ムヘカラズ。唯我心ヲハジシメテ菩提ヲ願フベキ事也。二条ノ院讀岐、此心ヲ詠シ玉フニヤ、うきも猶昔の事とおもわざばいかに此世を恨みはてまし トヨミ玉フナリ。

昔桓<sup>ハシ</sup>舜僧都トイケル山僧、余リ貧クシテ日吉ヘ參籠シテ祈誓シケレトモ、何ノ示現モ不<sup>レ</sup>蒙シテ有リケレハ、山王權現伝行大師ヲモ恨ミ奉テ離山シテ稻荷ヘ詣デ申ケルニ、幾程モナキ内ニ千石ト云札ヲヒタヒニ押シ玉フト見テ喜ビ思程ニ、又ノ夢ニ稻荷ノ被<sup>レ</sup>仰ケル様ハ、「日吉ノ大明神ノ御制止アレハ先ノ札ハ（5オ）召返ス」ト仰セラル。夢ノ中ニ申ケルハ、「吾コソハ御計ヒモナクテ余処ノ御恵ミ迄ヲ押ヘ御制止アルコソ心得難ク候」ト申セハ、御返事ニ「吾ハ小神ナレハ法味ヲ喜デ其外ノ事ハ思ヒ分タズ。彼レハ大神ニテ在ス故ニ、深キ思召アリ。『桓舜ハ今度生死ヲ離ルベキ者也。若今生ノ栄花アレバ障リト成テ出離難カルベシ。故ニ色々申セトモ聞モ入レヌ事ニ候。何シニ賜フゾ』トノ玉フ。故ニ今ハ取返スナリ」ト仰ラレケリト見テ、扱ハ深キ御慈悲ヨト夢ノ中ニモ辱ク思テ、頓テ本トノ山ヘ帰テ一ト筋ニ後生菩提ヲツメ往生シタリトナリ。行基菩薩ノ曰「一世ノ栄花利養ハ多生輪廻ノ基也」ト。又叡山宝地房ノ證眞法印ノ夢ニ、西坂本ヨリ十禪師ノ登ラセ玉フニ行逢ケルニ、手輿ニ召テ御眷属ヲ數多ツレテ在ス。其時法地房、何ヲカ願ヒ申バヤト思テ、老母ノ貧キ事ヲ思ヒ出シテ、「何卒彼ノ（5ウ）老母ヲ養フ程ノ事御計ヒタビ玉ヘ」ト申ケレバ、御色ザシマコトニ目出度御心地ヨゲニ見ヘサセ玉ヒケルガ、此事ヲ聞セ玉ヒテ、シホ<sup>ノ</sup>ト瘦衰ヘテ物思フ姿ニナラセ玉フ。実ヤ世間一旦ノ事ヲ申ニ依テ御心ニ叶ヌニコソト思返シテ、「老母ノ事ハ幾程モ有間敷世ニ候ヘハ、イカデモ候ベシ。後生菩提ノ事、如何候ヘキ。御指図候ヘ」ト申ケレハ、御氣色元ノ如クニナラセ玉ヒ、御心地ヨゲニテ打ウナズカセ玉ヘケルト見テ、夫ヨリハ道心イト深クシテ終リ目出度カリケリ。世間ノ事ヲノミ神仏ニ祈ルハ、返ス<sup>レ</sup>モ愚カ也。和光ノ御本意ハ仏道ニ入<sup>道</sup>シテ始<sup>レ</sup>八相成等ハ以論<sup>レ</sup>其終<sup>ヲ</sup>トイヘリ。仏意ヲ仰デ成道ノ化儀ヲ待ヘシ。世間ノ善ニハ孝養ハ最上ノ福也。然トモ菩提心ニ<sup>レ</sup>ハ劣レリ。淨土ニ生シテ引導セン事、実ノ孝養也。善根ノ

有劣アル事、譬ハ星ノ光リアレトモ月ニ及バス、月明カ（6才）ナレトモ日光ニ不及。如此孝養モ菩提心ニ及フベカラズ。

### 【生類ヲ神明ニ供スル不審ノ事】

安藝ノ巖島ハ、菩提心ヲ祈請ノ為ニトテ人多ク參詣スル由ヲ申伝ヘタリ。其故ハ昔弘法大師參詣シ玉フテ甚深ノ法味ヲサ、ケ玉フ時、御示現ニ何事ニテモ御所望ノ事承ルヘキ由被<sup>イハシ</sup>仰ケルニ、「我身ニハ別ノ所望モ候ハズ。末代ニ菩提心ヲ祈誓スル人ノ候ハ、道心ヲタビ玉ヘ」ト申玉ヒケレハ、「承リヌ」ト仰ラレケル故ニ、昔ヨリ上人方常ニ參詣スト也。時ニ或上人參籠シテ社壇ノ容子ヲ見レハ、海中ノ鱗<sup>ウロコス</sup>イクラト云事モナク祭供シテアリ。和光ノ本地ハ仏菩薩也。慈悲ヲ先トシ人ニモ殺生ヲ誠メ玉フヘキニ、此有様何共不審也ケレハ、トリワケ先ツ此事ヲ祈誓申ケルニ、御示現ニ「実ニ不審ナルベシ。是ハ因果ノコトハリモ不知、徒ニ物ノ命ヲ殺シテ浮ビ難キ者ノ我ニ供セント思フ心ニテ、咎ヲ吾ニユヅリテ彼ハ罪輕ク、殺サルゝ生類ハ報命尽テ徒ニステヘキ命ヲ（6ウ）我ニ供スル因縁ニ由テ仏道ニ入ル方便トナル。依テ我力ラニテ報命尽タル鱗ヲカリヨセテ取スル也」ト示シ玉ヘケレハ、不審晴ケリトナリ。江州ノ湖デ大鯉ヲ浦人取テ殺ントスルヲ、山僧備ヲトラセテ湖ヘ入ケルニ、其夜ノ夢ニ老翁一人來テ云様、「今日我命ヲ助ケ玉フ事、忝ハ候ヘトモ大ニ本意ナシ。其故ハ徒ニ海中ニシテ死セハ出離ノ縁カケ候ベシ。加茂ノ贊ニナツテ和光ノ方便ニテ出離スベ由ニヤ。大權ノ方便、凡夫ノ知ラザル處也。」

人ノ候ハ、道心ヲタビ玉ヘ」ト申玉ヒケレハ、「承リヌ」ト仰ラレケル故ニ、昔ヨリ上人方常ニ參詣スト也。時ニ或上人參籠シテ社壇ノ容子ヲ見レハ、海中ノ鱗<sup>ウロコス</sup>イクラト云事モナク祭供シテアリ。和光ノ本地ハ仏菩薩也。慈悲ヲ先トシ人ニモ殺生ヲ誠メ玉フヘキニ、此有様何共不審也ケレハ、トリワケ先ツ此事ヲ祈誓申ケルニ、御示現ニ「実ニ不審ナルベシ。是ハ因果ノコトハリモ不知、徒ニ物ノ命ヲ殺シテ浮ビ難キ者ノ我ニ供セント思フ心ニテ、咎ヲ吾ニユヅリテ彼ハ罪輕ク、殺サルゝ生類ハ報命尽テ徒ニステヘキ命ヲ（6ウ）我ニ供スル因縁ニ由テ仏道ニ入ル方便トナル。依テ我力ラニテ報命尽タル鱗ヲカリヨセテ取スル也」ト示シ玉ヘケレハ、不審晴ケリトナリ。江州ノ

湖デ大鯉ヲ浦人取テ殺ントスルヲ、山僧備ヲトラセテ湖ヘ入ケルニ、其夜ノ夢ニ老翁一人來テ云様、「今日我命ヲ助ケ玉フ事、忝ハ候ヘトモ大ニ本意ナシ。其故ハ徒ニ海中ニシテ死セハ出離ノ縁カケ候ベシ。加茂ノ贊ニナツテ和光ノ方便ニテ出離スベ由ニヤ。大權ノ方便、凡夫ノ知ラザル處也。」

【信ノ事】

○凡三界ノ輪廻四生ノ転変、皆是無明ノ眠ノ中ノ妄想ノ夢也。  
○利根<sup>リケン</sup>ノ外道ハ邪相ヲ正相ニ入テ邪法ヲ以正法トシ、鈍根ノ内道ハ正相ヲ以邪相ニ（7才）入、正法ヲ以邪法トスト积シ玉ヘリ。六祖大師モ、邪人正法ヲ説ケハ正法邪法ト也、正人邪法ヲ説ハ邪法正法トナルト。下医ハ藥ヲ以毒トシ、上医ハ以<sup>レ</sup>毒<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>藥<sup>ト</sup>、中医ハ毒ヲ毒トシ藥ヲ藥トス。近代ハ正見ノ人希ニシテ、如來ノ正法ヲ邪見ノ情ニ任セテ自他共ニ邪道ニ可<sup>レ</sup>入ラヤ。牛ハ水ヲ飲テ乳トシ、蛇ハ水ヲ飲テ毒トス。法ハ是一味ナレトモ邪正ハ人ニヨル。（二行アキ）

昔或在家ノ人、山寺ノ僧ヲ信シテ世間出世トモニ深ク頼ミケルガ、病氣ノ節柄ハ藥迄モ諸事問ケリ。此僧医骨モナカリシ人ニテ、万ノ病ニ藤ノ疣<sup>ウツラ</sup>ヲ煎ジテ上レト教ヘケル僕ニ、是ヲ用ルニハ、例ノ「藤ノ疣ヲ煎シテメセ」ト云。心得難ケレトモ容子ゾアルラン<sup>アララン</sup>思ヒ、此言ヲ信シテ尋レトモ、近辺ハ取尽シテナカリケル故ニ山ノ麓ヲ尋ネケル程（7ウ）ニ、谷ノホトリニテ失タル馬ヲ見付シト也。是レ信ノ致ス処也。

### 【アミタ如来御身替ノ事】

古ヘ鎌倉ニ町ノツボネトヤラ申有徳人ガ有テ、召遣ノ女、如何ナル宿善ヤ有ケン、念佛ヲ信シテ人目ヲ忍ビツゝ密ニ常々申ケリ。正月元日ニ、申付タル事ナレハ、心ナラズモ「南無阿弥陀仏<sup>ムツ</sup>」ト申ケレハ、此主大ニ瞋リ、「アライマ<sup>アライマ</sup>シヤ。人ノ死タル様ニ今日シモ念佛申事、返ス<sup>シ</sup>シ<sup>シ</sup>惡キヤウ也」トテ、頓テトラヘテ錢ヲ赤ク焼テホフニアテケリ。サレトモ女ハ、念

仏申タユヘナラバイカナル咎ニモアタレ、夫ニ付テモ如來ヲ念ジ喜ビケルガ、サノミ痛モナカリケリ。主年始ノ勤ナンドセントテ、持仏堂ヲ開テ本尊ノアミタ如來ヲ拝スレハ、金色ノ立像ノホフニ錢ノ形黒ク付テ見ヘケリ。怪ミテ能々見ルニ、金焼ニシタル錢ノ形也。女ヲ呼テ顔ヲ見ルニ、聊モ疵ナシ。主大ニ驚キ懃愧懺悔シテ、仏師ヲ呼金伯ヲサスルニ、伯ハ幾重トモナク重レトモ疵ハカクレズ。今ニ金焼仏トテ在ス。當時ハ疵三角ニ見ユルト也。（8オ）マコトニ今生斗ニ非ス、生々世々ノ御身替ハイカ斗ナラント思シラレタリ。

【觀音利生ノ事】

古ヘ貧キ女房有テ清水ヘ常ニ參詣シケルカ、功積テ示現ニ一人ノ老僧告玉ヒケルハ「其傍ラナル者ノ衣裳ヲ盜メ」ト仰ラル、ト見テ夢醒タリ。此事如何スベキヤト返ス「思煩ヒケレトモ、慥ナ御示現ナレハ、タトヒ如何ナル恥ヲウルトモ如何セシゾト思切テ、傍ナル者ノ衣裳屏風ニ掛置タルヲ引落シテ、打カツギ下向スル程ニ、五条ノ橋ニ大番衆ト覺敷武士、大勢ノ供ニテ通ルニ行逢ケリ。「如何ナル女ゾ、唯一人居ルソ」ト問ヘハ、物詣ノ下向ノ由答ヘケル。「ナント某ト田舎ヘ行ベキヤ」トナヲザリニイ、掛ケレハ、「便リナキ身ニテ候ヘハ、御哀ミ有ルヘクハ何國ヘモ參ン」ト云。「実歟」ト問ヘハ、御疑ヒ有間敷由イケリ。月ノ光ニ見レハ、若キ女房ノミメ形ナビラカナリケレバ、「サラハ」トテ頓テ引馬ニ打チ乗セテ東ヘ下リケリ。夫婦ノ契リムツマジク、觀音ノ御助ケニヤ。互ノ（8ウ）志不浅、子息ナンド出生シテ樂ミ栄ヘ、奥州ノ南都ニ有ケリ。刲十年斗過テ、次ノ大番ニ此女房モ都ヘ相見シ登リケルニ、都ニ

ユカリモナクナリ果タル事ヲ有ノ僕ニ語ンモサスガ人ゲナク思テ、親敷者モ有由イ、置タリケルニ、既ニ京ヘ入テ或家ノタノシゲナル前ヲ過キケルニ、「是コソ我伯母御前ノ本也」トテ、輿ヲカキ入サセケリ。女房内ヘ指入テ、主ヲ尋テ申ケルハ「本ハラハ、都ノ者ニテ候ヒシガ、ユカリノ者モ皆ウセ、親敷者モナキ僕ニ、是ソ我カ伯母御前ト申テ候也。願ハ見参シテ頼ミ入タシ」トテ、懷中ヨリ金子ヲ五十両取出シ与ヘケレバ、兎角ノ子細モナク、「メイ御前ノ入ラセ玉フタル」トテ親敷、刲酒ナンドヲ勧メテ後、主此女房ニ申ケルハ「抑イカナル御事ニテ、京ニ入人コソ多キ、其中ニ斯親敷ナリ參スル事、不思議ノ事哉」ト云程ニ、此女房、「実ニ是モ一世ノ事ニテハ候マジ。定テ昔ノ契リモ深クコソ候ハシ。吾身ノ事、有ノ僕ニ語リ申ベシ」トテ始メ（9オ）ヨリ細々ト語リケレハ、主手ヲハタト打テ、「アラ不思議ノ事ヤ。彼ノ衣裳ハ某ガ衣ニテ有リシガ、盜レテ後ハ仏ヲウラメシク思奉テ、參詣モセザリケリ。吾心ノ愚カサヨ。斯ル御計ヒニテ未目出度カルベシト知ラザル凡夫ノ心ノ愚カサヨ。觀音ノ御慈悲方便、難有コソ」トテ、互ニ袖ヲシボリツ、打連テ清水ヘ詣ケル。夫ヨリ弥々親敷テ、田舎ヨリモノ物登セ、都ヨリモ色々下シテ、実ノ身ヲ分シ親類ヨリモムツマジカリシトナリ。是大聖ノ方便、難有コソ覓ケル。

鎌倉ニ或武士二人、地蔵ヲ信シテ俱ニ崇メ供養シケリ。一人ハ貧シカリケレハ、古キ地蔵ノ相好モヨゴレタルヲ、花香ヲサゝゲ尊ビケリ。一人ハ世間ユタカナリシユヘ、新敷造立シテ厨子ナンド美麗ニシタテ、崇メ供養シケリ。此人先ノ地蔵ハ貧シキ時求メタレバトテ、傍ニ打置テ供養モセザリケル時、夢ニ此地

藏物怨ミタル氣色ニテ、(9ウ)

世を救ふ心は我もあるものを返りの姿はさもあらばあれとカク  
詠ジ玉フト見テ驚キ、一ツノ厨子ヲ安置シ、同様ニ貴ヒケリト也。

○宝篋印陀羅尼塔ハ、十惡五逆ノ罪人、惡道ニ墮シテマヌカル、  
二期ナキニ、其子孫有テ此神呪ヲ讒ニ七返滿テ彼ノ亡魂ニ廻向

スレハ、忽ニ其洋銅熱鐵変シテハ功德ノ池ト也。蓮花生シテ足  
ヲウケ、宝蓋頂キニ止リ、其蓮飛力如クシテ、須臾ノ間ニ極樂  
ニ生シテ、一切ノ種智ヲ証シ、位補處ニ有ト説玉フ。

### 【光明真言ノ事】

光明真言ハ又儀軌<sup>\*</sup>ノ説ニ、地獄ニ落テ苦患ニ沈ム亡魂ニ、此真  
言一返ミテ、廻向スレハ、無量壽如來、此亡魂ニ手ヲ授テ極樂  
世界ヘ引導シ玉フト云ニ、又經ノ中ニ、此陀羅尼ヲ満テ土砂ヲ  
加持スル事一百八返シテ、此土沙ヲ墓所ニ散ラシ死骸ニ散ハ、  
土沙ヨリ光ヲ放チ、靈魂ヲ救テ極樂ニ送ルト也。(10オ)

### 【仏法ノ結縁不空ル事】

高野ノ南證房寛海ト云人ハ近代蜜宗ノ明匠也聞ヘケルガ、先キ  
生ノ事ヲ知リ度思テ大師ニ祈念スルニ、七生ノ事ヲ示シ玉ヒケ  
リ。始ハ天王寺ノ西ノ海ニ有少キ蛤ニテ有シガ、自然ニ波ニ打  
寄ラレ浜ニ有リシヲ、幼ナキ者是ヲ取テ金堂ノ前ニ持行キケル  
ニ、舍利讚嘆ノ声ヲ聞シユヘ、死シテ後天王寺ノ大ニ生ル。常  
ニ陀羅尼ノ声ヲ聞シ故ニ牛ニ生レ、大般若ヲヒシ故ニ馬ニ生  
レ、熊野詣ノ者乗テ參詣セシ故ニ柴灯タク者ト生レ、常ニ火ノ  
光ヲ以人ヲ照ス故ニ、智恵サトク奥ノ院ノ承仕ト生レ、三密ノ  
行法ヲ耳ニ触、目ニ見ル故ニ、今檢校ト生レタリト示シ玉フ。  
又律ノ中ニハ、仏在世ニ蛤池ノ中ヨリ出テ仏ノ説法シ玉フヲ草

ノ根ニマトハツテ聞ク時ニ、牧牛<sup>ヲ</sup>人知ラズシテ杖ノハシニテ  
サシ殺シケルニ、聞法ノ因縁ニ依テ忉利天ニ生ジ生シテ神通ヲ  
以テ即チ諸天ト共ニ仏処ニ詣シ、法ヲ聞テ初果ヲ得シト也。  
(10ウ)

又天竺ニ婆羅門有テ、人ノ觸體ヲウル者有リケルニ、是ヲ買人  
銅ネノ箸ヲ以耳ノ穴ヲ通シテ、深キニハアタヘヲ大ク与ヘ、浅  
キニハ少ク与ヘ、通ラヌニハ与ヘズ。其故ヲ問ヘハ、「昔聞法  
シケル人ノ耳ハ穴深シ。少ク聞ルハ淺シ。惣テ不聞ハ穴通ラズ」  
トイヘリ。拵聞法ノ觸體ヲ買テ塔ヲ立、供養セシカバ、天ニ生  
ジケリト也。況ヤ自ラ法ヲ聞テ信センヲヤ。

### 【末法ノ僧ヲ敬フ事】

十輪經ノ中ニ、破戒ノ比丘ノ盲目ナラン妻ニ手ヲ引レ、子ヲ  
抱<sup>ヲ</sup>テ酒ノ家ヨリ酒ノ家ヘ至シヲモ、舍利仏モ自運ノ如ク敬ハ<sup>ハ</sup>、  
福ヲウベシト。心地觀經ニハ、破戒ナレトモ正見ノ者ハ國ノ福  
田也トイヘリ。持戒ナレトモ惡見ノ者ハ惡知識ト見ヘタリ。悲  
華經ニモ、袈裟ヲカクル程ノ者ハ必解脱スヘシト云ヘリ。大集  
經ニハ、重キ宝ニタトヘテ、金銀等ノナキ時ハ白錫マデ宝トス。  
得道ノ人ナク乃至持戒破戒ナキ時ハ、唯髮ヲ剃。(11オ) 袈裟  
ノカタハシヲモキテ僧ノ形ナランヲバ供養スヘシ。繫縛シ殺害  
スヘカラス。タトヒ犯罪アリトモ、法ニヨリ寺ヲイダスヘシ。  
若王臣是ヲ繫縛シ殺害セハ、賢聖國ヲ去、災難シバ<sup>ハ</sup>來リ。  
異國キシヒテ境ヲ犯スヘシト説玉フ。タトヒ惡趣ニ墮ストモ、  
遠ク菩提ヲウベキ因ヲ見ル故也。不レ可<sup>レ</sup>輕。

### 【頭陀ノ事】

右ハ沙石集一二ノ巻ニ出ツ

○田有レハ田ヲ憂ヘ、家有ハ家ヲ憂ヘ、牛馬六畜コレナケレハ

ナキ事ヲ憂ヘ、アレハアル事ヲ憂フ。有ルニ付テモウレヘ、無

ニ付テモ憂フト經ニ三説玉フ事。出家ハ煩ヒナク愁スクナシ。頭

陀ヲ行スレハ、世間ニハ賤キ業ト思ヘリ。仏法ノ中ニハ清淨ノ

活命也。三十二相ノ中ノ無見頂ノ因ハ乞食也。三界ノ獨尊タル

サヘ其跡ヲ示シ、枳子トシテ彼風ヲ學ハザランヤ。禄ヲ求メ栄

花ニホコラン事ヲ手柄ニ今時思フ事、大キナル誤也。

○心地觀經ニ曰、若覆<sup>レ</sup>罪者、罪即增長シ、發露懺悔スレハ罪

即消滅ス。云々。(11ウ) 罪ヲ隱スハ、木ノ根ニ土ヲ覆ヘハイ

ヨ<sup>ク</sup>木サカフ。懺悔スルハ、根ヲ顯セバ木ノ枯ルカ如シトイ

ヘリ。然ハ罪業ノ木ヲ枯ント思ハ<sup>ク</sup>、覆藏ノ土ヲ覆フヘカラズ

トイヘリ。

### 〔物カクス因縁〕

百喻經ニ曰、昔愚ナル男有テ人ノ聾ニ成テ行ケルガ、サマ<sup>ク</sup>ニモテナセトモサノミ物モクワズ、餓テ覓ヘケル僕ニ、妻カ近

廻ヘ立出タルヒマニ、米ヲ一トホフク<sup>ミ</sup>テ食ントスル廻ヘ妻

還リ来ル。恥カシサニ顔ヲ打赤メテ居タリ。「ホフノ腫テ見ヘ

玉フハ如何ニ」ト問ヘトモ、物モイハズ弥<sup>ク</sup>顔赤ミケレハ、

大事ノ腫物ニテ物モ云レンニヤト思テ、父母ニ告ケレハ来テ

「如何ニ<sup>ク</sup>」ト問ニ、弥<sup>ク</sup>恥シサニ顔赤ミケリ。隣ノ者皆

集リテ、「聾殿ノ腫物ハ大事ニオハスルゾ。浅間敷事哉」ト訪

ヒケリ。如何サマニモ大事ノ物ニコソトテ、医師ヲ呼テ見セレハ、「ユ<sup>ハ</sup>シキ大事ノ者也。急キ療治スヘシ」トテ、大キナル

火針ニテホフヲ焼ヤブル。米ボロ<sup>ク</sup>トコボレテ、恥ヲカキシ

事限リナシトナリ。是ハ罪ヲ(12オ)発露懺悔セズシテカクシ

ヲキテ、閻魔ノ聴庭ニシテ俱生神ノ御タ<sup>シ</sup>、淨婆刹ノ鏡ノ影ナクシテ、十王冥宦ノ前ニ引スヘラレ、阿防羅刹ニシバラレテ恥ヲカクノミニ非ス、地獄ニ落テ苦ヲウクルニ譬ヘ玉フ。因果ノ道理ヲ弁ヘ、懺悔スヘシト也。

○他郷ト云ハ三界也。本国ハ淨土也。安樂集ニ有之。敵国ノ人

ノ子取レテ惡ク使ル<sup>ガ</sup>、本国ヘ帰ント思フ如ク、娑婆ヲ他国

ト思ヒテ、淨土ノ行業ヲスヘシト云々。

### 〔嚴融妹ト問答ノ事〕

中頃甲斐国ニ嚴融房ト云學匠有ケリ。修行者多ク給仕シテ學問

シケリ。余リ腹立ツ上人ニシテ、飯ノカヨヒスルニモ、湯ノア

ツキモヌルキモシカリ腹立、疾持來レハ「我ニ物クハセジトスルカ」トイ<sup>ク</sup>、又久シケレハシカリ、其間ヲ取ントテ障子ノヒ

マヨリノソケバ、「何ヲ見ルゾ」トテ弥々腹立ケル故ニ、皆カ

心ヨカラズ見ヘケレトモ、ヨキ學匠ナレバ忍テ學問シケリ。此

僧ノ妹、最愛ノ一子ニ送レテ、人ノ親ノ習ト云乍ラ強クモ(12ウ)

歎キケレハ、近廻ノ人モ訪ヒ哀ミケルニ、此上人決テ訪ハ

ザリケルヲ「ウタテヤ」トウラミ、「是程ノ歎キヲ上人ノ訪ヒ

玉ハザル事ノ、余廻ノ人ダニモ情ヲカクル」ト云ケルヲ、弟子

ノ中ニ聞テ、「彼ノ妹ノ怨ミ被申候ヘハ訪ヒ玉ヘガシ」トイヘ

ハ、例ノ腹立テ、「無下ノ女房カナ。法師カ妹トモ云レン者ハ、

在家ノ外ノ人ニハ似ベカラズ。生老病死ノ國ニ居乍ラ、愛別離

苦ノ愁ナカルベシト思フ歟。アラ不覓ヤ。云甲斐ナキ女哉。イ

デ<sup>ク</sup>往テ、ツメフセコン」トテ、ガサ<sup>ク</sup>トシテ行レケルニ、

「誠ニ余リノ歎キニ心モアラレズ。斯ヤ申テ侍ル也」トイヘハ、

「無下ノ人哉。サスカ此法師ガ親敷驗シニハ、世ノ常ノ人ニヤ

似玉フベキ。生有者ハ必死ニ帰シ、会者定離ハ常ノ事。南部ハ元ヨリ老少不定ノ国也。前後相違也。母子ノ別レ世ニナキ事カ。始テ歎キ驚クヘキニ非ス。返ス「不覺也」ト呵ケレハ、「カタノ如ク道理ハ承リ知リテ候ヘトモ、身ヲ分ケ手付テ候ヒツル上ハ何ノ道（13才）理モ忘テ、唯別レノミ悲敷覚候」トテ、泪モカキアエズナキレハ、「アラ愚痴ヤ。道理知リ乍ラ猶歎クヘキ歎。サレハソレハ知リタル申妻アラス。不覺ヤ」トテ、イヨ／＼責フセタリ。良有テ泪ヲ押ヌグヒ、「抑人間ノ腹立候事ハ惡敷事歟。又苦シカラヌ事カ」ト云ヘハ、「夫ハ貪瞋痴ノ三毒トテ、煩惱ノ瑞一也。云ニヤ及ベキ恐口敷咎也」ト云時、  
「ナドサラハ、夫程御心得有ラハ、余リニ御腹ハ立ラレ。ナト惡敷事ゾ」ト云ニ、ハツタトツマツテ云ヘキ言ナクシテ、「ヨシサラバ、如何ニモ思フサマニ歎キ玉ヘ」ト呵テ帰リケリ。学匠ノ妹ノ印ト聞ヘケリ。サレハ道理過ト誰モ知レトモ、守リ行フハ實ニ難シ。改テ行ハ智者也。賢人也。多聞広学トモ云ヘシ。昼ニ日知ル事ノ難ニハ非ス。行事難キ也ト。妹ハ多聞ハ兄ニ劣リタレトモ、智恵ハ勝テイツメケリ。

### 〔末代僧ノ惡敷事〕

又仏在世ニ質多居士ト云俗ノ初果ノ聖者有テ、信心深クシテ常ニ僧ヲ供養（13ウ）シケルニ、善法比丘ト云僧、常ニ彼家ニ行テ供養ヲウク。或時遠国ヨリ客僧ノ來リケレハ、居士懇ニ供養シケリ。善法比丘是ヲ見テ、吾ヲハ供養セズシテ他國ノ僧ヲ重スル事無（本意）ト妬歎思テ、本ヨリ腹立比丘ニテ惡口シケリ。『今日ノ御供養コソ目出度見ヘ候ヘ。山海ノ珍物數ヲ尽サレ。唯ナキ者トテハ油糟計也』ト云。居士油ヲアキナヒテ世ヲ渡ル

由ライヘリ。爰ニ居士、「唯今思ヒ合スル事ノ候。アキナヒノ為ニ諸國ヲ歩キシニ、或國ニ鷄ノ形、余ノ常ノ鷄ニテハナク、音ハ鷄ノ音ナルアリ。此由ヲ問ヘハ、此鷄ノ母烏ト嫁テ生メリ。仍テ形ハ母ニ似リ。音ハ父ニ似テ候。是ヲ烏鷄ト名クトイヘリ。今御形ヲ見奉レハ、沙門ノ御姿ナリ。仰ラル、御言ハ在家ノ語也。彼ノ烏鷄コソ思ヒ出サレ候」ト云時、善法比丘言ナク腹ヲ立テ、食セズ座ヲ立サリヌト也。嚴融房ノ風情彼ニ似リ。実ニ当（14才）時ノ出家ハ形斗出家ニシテ心ハ俗也。是ヲ袈裟キル猶師トモイ、古人ハ糸眼儒心ノ者トモイヘリ。可恥可悲当今ナリ。

### 〔自ヲヲヒテ他ノ沙汰ヲスル事〕

草河ノ真觀長老トイシハ、教院ニ六年、禪院ニ七年、在唐十三年修學シテ天台禪門ノ觀心ノ用意心ニク、思ハレン人ニテ、帰朝ノ後洛陽ノ學者道人ニ便リヲ求メ訪ヒケルニ、或時遁世ノ僧、齡五旬ニ余レル人見參仕度由有リケルニ、タヤスク人ニ對面スル事モナク、法門ナント申サル、事モ希也ケルガ、扱此僧ニ対面シテ「何事ノ御用ニ候ヤ」ト問ヘハ、「天台ノ法門ヲカタノ如ク承リ候ニ付テ草木成仏ノ事不審ニ候」ト云。良暫ク返事ナシ。「草木成仏ハ暫クヲキ候。御辺ノ成仏ハ如何御存候ゾ」ト問ハル、ニ、「此事ハ未タ何トモ存セズ」ト云。「先ツ其御用意カ有ヘク候」トテ立入ラレケリ。此僧言ナクニガリ顔ニテ出ケルトナリ。此僧自分ノ生死ノ大事（14ウ）ヲハ指置、多事ヲ論スル故ニ、志シナシト見テ立入ラレタリ。名利ノ為ニ広学ヲ元トシテ何ゾ真実ノ道ニ入ザランヤ。恵心僧都菩提心ヲ起シテ後、名利ノ二字ヲ拝レケルトカヤ。名利ノ心ヲ以テ学問シ、

学ノ力ニ由テ道心ヲ起スヘシ。又名利ノ心ナクハ学問スヘカラズ。学ナクハ智恵アラジ。智恵ナクハ道心発シ難シ。淨名經ニ、欲ノ釣ヲ以引テ後ニ道ニ入ルト是也。但シ道心ヨリ名利ヲ捨ルト、名利カラ道心ニ入トハ順逆遲速アルヘシ。

### 【孝子ノ事】

漢朝ニ元啓ト云者アリ。十三ノ時、父妻カ言ヲ本トシテ老親ヲ山ニ捨ントス。元啓頻ニ諫レトモ不用シテ、元啓トニリ手輿ヲ作テ深山ノ中ニ捨ケリ。元啓「輿ヲ持帰ン」ト云ニ、父「今ハ何ニセンゾ。捨ヨ」ト云時、「父ノ年老タラン時、又用ナンズル為也」ト云。其時父心付テ、「我父ヲ捨ル事、實ニ惡敷業也。是ヲ学デ我ヲモ又捨ン」ト思返シテ、父ヲ具シテ（15才）帰リ養シト也。此事天下ニ聞ヘテ、孝孫トゾ云ケル。実ニ父ヲ教ル智恵甚深シ。爰ニ賢人ト世人呼ト也。

### 【孝子ノ事】

孔子ノ弟子四人ノ上足ノ中ニ閔子騫ト云ケルハ、繼母是ヲ惡ミ、我子二人ニハ常ノ綱ヲ入テキセ、騫ニハ革ノ花ヲ錦ニシテキセケリ。是ヲ怨ル心ナクシテ父ニ隠シケレトモ、自然ト或時見付テ父大ニ瞋テ妻ヲ追出ス。騫父ヲ諫テ曰「此母家ニアレハ一子一重ナラン。母家ニナクハ三子一重ナラン。」若余ノ母ヲ入レハ三人マハ子タルヘキ由願ヒケレハ、父道理ニヨレテ妻ヲ留ム。其後繼母心ヲ改メ、我実ノ子ヨリモイトヲシミケリ。此故ニ賢人ノ名ヲ得テ、終ニ上足ノ弟子ニ列ナル。

### 【孝子ノ事】

信州ニ中昔或人京ヨリ女房ヲ具シテ下リケルニ、京ニテ古ヘ契リ通シケル中ヨリ文ヲ下シケルガアマタ有ケルヲ隠シ置タルヲ、

期ル事アリト告知ラスル者有リケレハ、夫是ヲ尋ネ出シテ、吾カ無筆ニテ読レザリ（15ウ）ケル保ニ、息子ヲ小僧ニシテ戸隠ノ山寺ニ有ケルヲ呼寄セ、母ノ前ニテヨマセケレハ、母ハ色ヲ失ヒテ肝モ心モ身ニソハズアリシガ、此児心有ル者ニテ唯世ノ常ノ文ノ様ニ読聞セケレハ、人ノワザ也ト思テヤミヌ。此繼母余ニ嬉敷思テ、酘ビ物取具シテ文ヲヤリケル歌ニ、  
しなのなる木曾路にかくるまろ木橋  
ふみみし時はあやうかりしを  
此児ノ返事ノ歌ニ、  
しなのなるそのはらにしもやどらねば皆母きゝとおもふ斗そ  
彼ノ閔子騫ニ似リ。梵網經ニモ、一切ノ男子ハ皆我父也、一切  
ノ女人皆我母也ト云々。  
【孝道事】

魯州ニ母子三人貧クシテ世ヲ渡ル者有ケリ。一人ノ子他行ノヒマニ、隣ノ人母ニ恥ガマシキ事ヲ与ヘケルニ、子帰テ此事ヲ聞テ母ガ恥ヲスゝガン為ニ隣ノ人ヲ害ス。（16オ）互ニ役所ヘ出、「過二行ハレヨ」ト申。兄ハ「母ト弟トハ過ナシ。我ヲ誅セラレヨ」ト申。弟ハ「母ト兄トハ過ナシ。吾ヲ誅セラレヨ」ト申。母ヲ召シテ問レケレハ、母「二人ノ子ハ過ナシ。我子ヲ教ヘザル故ナレハ我身ニ過アリ。二人ノ子ヲ助ケ玉ヘ」ト申。「俱ニ申處アレトモ、母ヲハ助ケテ二人ノ子ノ中ニ一人ヲ誅スヘシ。但シ母ガ言ニヨルヘシ」トテ母ニ問ケレバ、「弟ヲ召取テ兄ヲハ助ケラルベシ」ト申。王ノ玉ハク「人ノ親ノ子ヲ思フ習ヒ、多ク幼キヲ愛ス。何故ニ弟ヲステルヤ」ト。母カ曰「弟ハ我カ実子也。兄ハ繼子也。兄カ父命終リシ時、『我子ノ如クハゴク

ムベシ』ト申セシカバ、彼ノ言忘レ難キ故ニ是ヲ助ント思フ。

弟ハ我子ナレハ参ラス』トテ、二人乍ラ臣家ニ召ツカハレ母モ同ク富榮ヘケリ。我身ヲ忘テ我身全シ、ナサケ深ク義有テ賢人ノ名天下ニ聞ユ。人ヲ損スルハ身ヲ損スル。人ヲ助ルハ身ヲ助クル。此道理ヲ忘ル、人ハ人ノ皮ヲキタル畜生ナルヘシ。(16ウ)

【孔子身ヲ忘ル、事ヲタトフ】

孔丘<sup>キウ</sup>ハ儒童菩薩ノ後身トシテ周ノ世ニ出テ、仏法ノ方便ノ為ニ先王ノ要道ヲ述ヘテ國ノ政ヲ示シ、仁義ノ孝道ヲ教ヘテ人ノ心

ヲ正クセシ賢聖ナリ。或時ニ魯ノ哀公「世ニ物忘スル者有テ妻ヲ忘ル」ト語リ玉フニ、孔丘ノ曰「臣物忘スル人ノ夫ニ過タルヲ見ル。桀紂ノ君ハ其身ヲ忘レ玉ヘリ」ト語ラル。夏ノ桀王、殷ノ紂王、仁惠ナキ君ニテ國ヲ煩シ民ヲ惱ス。時ノ后ヲ愛スル余リニ彼ノ心ヲ喜バシメントシテ、酒ノ泉ヲタハ肉ノ山ヲツキ、人ヲシテ飲醉シメ惱シ殺シ、銅<sup>アカ</sup>ノ柱ヲ焼テ人ヲセメ登セ焼殺ス。是ヲ見テ后ノ笑ヒ愛スルヲ心ヨキ事トシテ、人ノ悲ミ歎キ積テ天ノ責ヲ蒙リ、俄ニ后トモニ亡ビ失玉フ。是ハ我身ヲ忘レタル人也。妻ハ猶身ノ外ナレハ忘ル、事モアルベシ。我

身ヲ忘ル、ハ愚ナル由被<sup>レ</sup>申ケリ。哀公此語ニ恥テ政ヲ正クシテ賢王ニテ在シケリ。此事ヲ思ニ、実ニ身ヲ忘レサル人ハ少シ。

【五定ノ事】

先ツ仁義礼智(17オ)信ノ五常ヲ正クシ、家ヲ持チ國ヲ取ル。是身ヲ忘レヌ人也。仁ト云ハ広ク人ヲ惠ミ愛シテ、老タルハ親ノ如ク敬ヒ、幼ハ子ノ如ク哀レム。若人仁ナキハ畜生ノ如シ。ナサケ深ク惠ミ厚キヲ云。心セマキ時ハ仁惠ト云。広キ時ハ慈悲トス。義ト云ハ正直ニシテ道理ヲ弁ヘ、是非ヲ判ジ偏頗ナク

奸邪ナキヲ云。五戒ニハ、仁ハ不殺生戒、義ハ不偷盜戒ニアタル。礼ト云ハ人ヲ敬慎ミ恐レテ儀ラサル事也。不邪淫戒ニ当ル。邪淫ハ人ヲアナドリケル故也。智ト云ハ照了ノ心有テ是非好惡ヲ弁ヘ、愚ナル事ヲ捨テ、賢キ道ヲ慕フ心也。不飲酒戒ニ当ル。酒ハ人ノ心ヲ狂ハシメ愚痴ノ因縁ナル故ニ、信ト云ハ心ニモ言ニモ實有テ偽リナク、不妄語戒ニ当ル。此五常全クスル人ハ災

害ナク運命久敷保ツ。名ヲ上、徳ヲ施シ孝養ノ本トス。

【孝教ノ教】

孝經ニ曰、居<sup>レ</sup>上不<sup>レ</sup>驕<sup>ム</sup>、為<sup>レ</sup>下不<sup>レ</sup>乱<sup>ム</sup>、在<sup>レ</sup>醜<sup>ミクシ</sup>能推云々。是ヲ孝養トス。此三事ヲ不<sup>レ</sup>行<sup>ム</sup>不孝トス。上ニ有テ驕ハ亡ビ、下ニシテ乱レハ刑セラレ、醜(17ウ)ニ有テ争ヘハ兵ストイヘリ。災難天亡是ヨリ起ル。身ヲ妄レタル人也。色欲ヲ愛シ、精ヲ尽シ、酒肉ヲホシヒ保ニシテ臟腑ヲクダシ、家ヲ美麗ニ作り、民ヲナヤミヲ思ハザレハ、身ヲ損ジ命ヲ失ヒ、久敷保ツ事ナシトイヘリ。當時ノ人皆身ヲ忘レル人多シ。況ヤ未來ノ一大事ヲ忘ル、事、淺間シキ。

【末代ノ遁世ノ事】

近代ハ名利ヲ捨て、遁世ニ入ル人、実ニ希也。唯渡世ノ為ニ遁世スル人、年々ニ多ク覚ヘ候。当世ハ遁世ノ遁ノ字ヲ改テ貪世ト書クヘキヲヤ。昔ハ世ヲ遁ル、今ハ貪ルナリ。

○諸惡莫作、衆善奉行ハ過去七仏ノ通戒也。諸惡莫作ハ戒、衆善奉行ハ定、自淨其意ハ惠ト釈ス。然ハ戒ハ盜ヲトラヘ、定ハ賊ク縛リ、惠ハ賊ヲ害ス三學ト云。

【法花念仏ヲ誹ル誤ノ事】

法花ヲ弘通スル人ノ中ニ念佛ヲ誹ル事、天台大師ノ御意ニ背ケ

リ。法花修行ハ止觀ノ四種三昧ニ出ス。常行三昧ハ九十日口ニミタノ名号ヲ唱ヘ、意ニミタノ身心ヲ觀ズ。(18オ)或ハ先ツ念シテ後ニ唱ヘ、唱ヘテ後ニ念ジ、或ハ唱念トモニ運ブ。歩々

声々念々皆アミタニ在スト釈セリ。或ハ与称十方仏功德正等トモ釈シテ、ミタ一仏ヲ唱フルハ、十方ノ仏ヲ唱フト同ト見ヘタリ。荊溪ハ諸經所讚多在弥陀ト釈シテ、一代ノ經ニミタヲホムル事多シトノ玉ヘリ。況ヤ法花ノ妙体ハ空仮中ノ三諦ヲ以規模トス。アミタハ梵語、漢ニハ無量寿ト云。阿ハ無空ノ義、般若ノ德也。弥ハ量仮ノ義、解脱ノ德也。陀ハ寿、中道ノ義、法身常住ノ寿命也。又法報応ノ三身也。三德也。仏法僧ノ三宝也。如是恒沙ノ德、三字ノ中ニ具セリ。此三諦三身我等カ一念ノ心中ニ有ル時ハ、本性ノミタトモ自性清淨ノ蓮トモ云。是即如來藏理三諦ノ義也。如ハ空、藏ハ仮、理ハ中也。是ノ理ヲ証ス故ニ、天台ノ御臨終ニハ觀經法華ノ首題ヲ御弟子ニ唱ヘサセ、四十八願、莊嚴淨土、華池宝樹、易往無人ト自唱ヘテ觀音來迎シ玉ヘハ、淨土ヘ行トコソ御弟子ニ告玉フ。真言ノ中ニモ。(18ウ)アミタノ習コマヤカ也。口伝有テ六字ノ名号ヲ五仏ノ呪字ト習事アリ。一切ノ如來ヲ五仏ニ攝スル事、密教ノ談也。天台ノ事称十方仏御釈モ此心ヲ得玉ヘルニヤ。禪師ノ中ニモ、智寛禪師ハ念佛ヲ我モ信ジ人ニモ勸メ、心地明カナラザラン行者ハ念佛ヲ行シテ淨土ニ生ジ、大事ヲ發明スヘシトイヘリ。法花ト念佛ハ一具ノ法門也。古德ノ口伝曰、昔在靈山名法花、今在西方無量寿、娑婆示現觀世音、大悲一体利衆生ト云々。金剛頂經ヲ引テ弘法大師釈シ玉ハク、妙法蓮華經ハ觀自在王ノ密号也。此仏ヲ無量寿ト名ク。淨妙国土ニシテハ成仏ノ身ヲ現ジ、雜染世

界ニシテハ觀自在ト名クトイヘリ。法花ミタ觀音一体ノ事、此釈分明也。地藏ミタ觀音一体ナリ。

#### 【妻帶ノ事】

八幡山ノ辺ニ上人有シカ、妻ヲ持タリケルガ病死セリ。人訪テ、「淺間敷候事カナ。上人ノ妻ニ送レ玉ヘル」トイヘハ、「如何シ候ハン。妻持テ候ニハ」ト云ケル。末代ニハ妻持ヌ上人モ(19オ)希ニコソト人々云ニケル。後白川ノ法王ハ「隱スハ上人、セヌハ仏」ト被レ仰ケルトカヤ。此聖ハ隱ス迄モナカリケリ。今ノ世ニハ隱ス上人少ナカラズ、セヌ仏弥々希也。首楞嚴經ニハ、淫心ヲタゝサレハ生死出ツヘカラズ。淫心ヲタゝズシテ生死ヲ解脱セント思ハ、沙ヲムシテ飯トセンガ如シト云々。欲界ノ煩惱ノ根本也。諸苦所因貪欲為本トモ説。愛是諸煩惱足トモ云テ、三界ノ牢獄二人ヲ繫ク鎖リハ唯姪欲也。老子ノ曰「罪ハ可欲色ヲ愛スル事ヨリ多キナルハナシ。禍ハ不知足財ヲ欲スル欲心事ヨリ大ナルハナシ」ト云リ。南山大師ノ曰「四百四種ノ病ハ宿食ヲ根本トシ、三塗八難ノ苦ミハ女人ヲ根本トス」ト云々。

#### 【妻帶ノ事】

天竺ノ鳩摩羅炎三藏、優填チ王ノ栴檀ノ像ヲ負テ漢土ヘ渡シ奉リ、龜茲國等ノ四ノ國ヲ經ルニ、彼國ノ王像ヲ止メ、又聖ノ種ヲツガントテ王ノ女ヲ嫁テ羅什三藏ヲ生メリ。鳩摩羅炎ハ彼國ニシテ入滅ス。今ノ嵯峨ノ釈迦如來是也。(19ウ)吳王后ヲ二人押合テ聖ノ種ヲツギ、生肇融叡ノ四人ノ子ヲマウク。羅什ノ子也トイヘリ。但シ一説ニハ弟子トイヘリ。實ニ末代ノ機ヲ知セ玉フ。

#### 【臨終ニ女障トナル事】

或山寺ノ法師、世ニ落テ或女ヲカタラヒテ住ケル程ニ、此僧病

ニ伏シテ月日ヲ経ルニ、妻懇ニ看病シテアツカヒケル。病日数積テ臨終ト覺ヘケル僊ニ、念佛数返申テ最後ト覺テ端座合掌シテ西方ニ向テ高声ニ念佛シケリ。此妻「我ヲ捨テ何国ヘヲハスルゾ。悲ヤ」トテ首ニ抱キ付テ引伏セケリ。「アラ口惜ヤ。

心安ク往生サセヨ」トテ起上テ念佛ハシケレトモ、引伏セラレテ終ニケリ。摩障ノ到ス処カ。

### 【臨終摩障ノ事】

古キ物語ニモ、道念アリケル僧世ニ落テ妻ヲカタラヒ、庵室ニ籠リ居テ妻ニ知ラレズシテ持仏堂ニ入、端座シテ目出度終リニケルヲ、妻後ニ見付テ、「アラ口惜。拘留孫仏ノ時ヨリ付添テ取ツメタリシ者ヲ逃シツル」トテ、恐敷氣色ニ成テ手ヲ打テ飛(20オ)ウセニケリ。発心集ニ侍ル。大論ニ曰、臨終ノ一念ハ百念ノ業ニスクレタリトイヘリ。阿耆陀王ト云シ國王ハ善人ニテ在シケルカ、臨終ノ時看病ノ者扇ヲ顔ニ落シケルヲ、瞋恚ヲ發シテ死シテ大蛇ニ生レテ、迦旃延ニ逢テ此由ヲ語リケリ。一生五戒ヲ持セル優婆塞、臨終ニ妻ヲ憐ム愛習在ケルガ、妻カ鼻ノ中ノ虫ニ生レタリ。又一生ノ悪人モ臨終ニ□□ニ逢テ勇猛ニ念佛シテ往生スル事、觀經下品下生ノ如シ。此故ニ臨終正念ヲ祈ル事也。

○光明后宮ノ内裏ノ屏風ニ書玉ヘルト也。「清貧ハ常ニ樂、濁富ハ常憂」ト。

右沙石集ノ三四ノ取意也

梵網經ニ、一切ノ畜類ヲ見ン時ハ、汝是畜生癡菩提心ト云ヘシト説玉フ。下劣ノ有情、タトヒ領解ナクトモ、法音毛孔ヨリ入テ遠ク菩提ノ因縁トナルトイヘリ。(20ウ)

○人王經ニ曰、菩薩未成仏時、以菩提為煩惱、菩薩成仏時、以煩惱為菩提。

### 【慈悲ノ事】

慈悲ハ菩薩ノ体、仏ノ心也。少分ナル時ハ仁トイ、広大ナル時ハ慈悲ト名ク。此心法界ノ衆生ヲ利ス心ナラバ、全ク菩薩ノ慈悲諸仏ノ心也。觀經ニハ仏心者大慈悲是也。法花ニハ如來室ト云。瑜伽論ニハ、菩薩ハ何ヲ以体トスト問ハ、慈悲ヲ以体トスト答フベシト。

釈尊御入滅ノ時、純陀長者一鉢ノ飯ヲ仏ニ供養セル志シ、法界ノ衆生ノ為ナリシカハ、広大ノ慈心ニ答ヘテ一鉢ノ飯十二由旬ノ大会ニ供養セシニトボシカラズ。人天大会、異口同音ニ、「南無純陀、身ハ人身也トイヘトモ心ハ仏心ニ同」トホメケリ。又天竺三王ノ后有テ、慈悲深キシテ一切ヲ哀ミ三宝ヲ敬ヒ玉ヒケルニ、國王邪見ニシテ是ヲソネミ、弓ヲ引テ后ヲ射玉ヒケルニ、后少モ怨ル色ナシ。弥々慈悲起シテ王ノ邪見ヲ哀レムニ、矢返テ王ノ胸ニ立テ死ス。世ノ諺ニモ、瞋拳ハ不レ打笑面トイヘリ。(21オ)

### 【智者ヲコロミル事】

昔漢土ニ國王有テ、天下ノ智者ヲ試ントテ百人ノ高僧ヲ内裏へ請シテ、武士ヲ数百騎隠シ置テ百僧ヲ俄ニ殺害スヘキ体ニカコミケレハ、皆アハテサワギテ四方ヘ逃去ルニ、一人ノ僧少モサハガスシテ儼然トシテ座ス。事ノ色バカリニテヤミヌ。王此僧ニ問玉フハ「余ノ僧ハ皆恐レサル。和尚一人何ゾ恐レザル」ト。僧ノ曰「生レルヨリ念々ニ死ス。何ゾ始テ驚ン」ト。爰ニ王、「此僧ハ智者也」トテ崇テ國師トセラレケリ。生ノ始ヨリ死ノ

来ル事ヲ知ラス。何ゾ敢テ無常ノ死ヲ恐レザラン。昔梵士有テ  
他国へ行テ年タケテ後古郷へ帰ルニ、里人「昔ノ人ノ来レルヤ」  
ト云ニ、「我ハ昔ノ人ニ似テ昔ノ人ニ非ズ」トイヘリ。年月去  
ル事ヲハ知テ年ニ随テ身ノ去ル事ヲ人知ラズ。

### 【無常ノ事】

昔道林禪師秦望山ノ松ノ上ニ居シ玉フニ、時ノ人鳥窠和尚ト名  
ク。白居易其国へ下テ行テ問テ曰「禪師ノ居處危クコソ」ト。  
師ノ曰「吾何ノ危キ事カ有ン。其許（21ウ）ノ危キ事、是ヨリ  
モ甚シ」ト云。白居易カ曰「某ニ何ノ危キ事カ侍ン。」師ノ曰  
「薪火相交リ識性不レ停。何ソ危キ事ナカラン。」侍郎ガ曰「如  
何ナルカ是仏法ノ大意。」師ノ曰「諸惡莫作、衆善奉行」ト。  
侍郎カ曰「三歳ノ孩児モ如レ此ハシリリ」ト。師ノ曰「三歳ノ  
孩児モ云事ヲウレトモ、八十ノ翁モ行事不レ欲」トノ玉フ。可  
弁。何ソ無常ヲ忘ンヤ。

### 【歌ノ徳】

恵心僧都ハ修学ノ外他事ナク道心深キ人也ケレハ、狂言綺語ノ  
徒ヲ惡マレケリ。弟子ノ児ノ中ニ朝夕心ヲスマシテ和歌ヲ詠ス  
ルアリ。「児共ハ学問ナンドスル事コソ本意ナルニ、和歌ヲ好  
ハ所詮ナキ者也。アレ体ノ者アレハ余ノ児共モ見学ブ。明日ハ  
里ヘヤルヘシ」ト同宿ニ能々申含メラレケルヲモ知ラス、月サ  
ヘテ物静ナルニ夜更テ縁ニ立出テ手水遣フトテ、彼ノ児ノ歌ニ、  
手にむすぶ水にやどれる月影の有かなきかの世にもすむかな  
手。

（22オ）

僧都是ヲ聞テ、折節ト云、歌ノ体トイハ、心肝ニソミテ哀レ也  
ケレハ、歌ハ道心ノシルベニモナルヘキ者也トテ此児ヲ止メ、

其後歌ヲ讀玉ヒケリ。近代ノ集ニモ此歌見ヘ侍リ。最此歌ハ、  
貫之病重クシテ心ヨハリケル時讀シ歌也ト拾遺ニアリ。

浦山しいかなる空の月なれば心の仮に西に行らん 惠心僧都  
山の端に影かたむきて悔敷は空しくすぐす月日なりけり

或上人老後述懷

古人ノ言ニ、老來（初モ学）道、古墳多々是少年人。  
洛陽ニ貧ク世ヲ渡ル若キ女有テ、母ヲ具シテ八幡ヘ詣テ身ノ貧  
キ事ヲ祈申ケルニ、娘ハ歩ミツカレテ宵ヨリ通夜ラ打伏シテ休  
ミケリ。曉ニ母驚シテ、「如何ニサシモ思ヒ立テ詣テタルニ、  
思フ事能々祈リ申玉ヘ。心安モ打トケテ休ム者カナ」トイヘハ、  
返事ニ、

身のうさは中々何と石清水おもふ心は汲てしるらん（22ウ）  
下向ノ時道ニテ殿上人ニマミヘ、車ニノセテツレ行玉フトナリ。  
小式部ノ内侍重病ニテ心ヨハク覚ケル時、母ヲ見テ声ノ下ニ、  
いかにせん行へき方もおぼほへず親に先たつ道をしらねば  
天井ニ感スル声有テ、神明ノ御助ニヤ、「汝カ病ハイヘニケリ」  
ト叫玉フ。

大江ノ孝周病重シテ頼ミナカリケリ。住吉ノ御タリ也ケレハ、  
母赤染衛門祈誓申テ「我命ヲ召シテ彼ヲ助ケ玉ヘ」ト祈リ申テ  
此歌ヲ書、御社ニ奉ル。

かわらんと祈る命はおしからで扱も別れん事そかなしき  
其夜白髪ノ老翁來テ、「此幣ヲ取」ト打笑ミ玉フト夢見テ病癪  
ニケリ。

家隆卿ノ子息隆尊禪師、坂東修行シテ歩キケルニ、或地頭ノ家  
ノ前ノ桜ノ花ヲ一ト枝折テ逃ケルヲ、主見付テ「アノ法師ヲト

ラヘヨ」トノシリケレハ、人々ハヘカラメケリ。（23オ）

禪師不祥ニアヒテ詮方ナカリケレハ、「殿ニ斯申伝ヘ玉ヘ」トテ、

白浪の名をはたつとも吉野川花ゆへ沈む身をばらみじ

使シカヘトイヘハ、「繩ヲハ解、唯具シテコヨ」トテ取留テ

又彼ノ禪師初テ修行セントテ、同行一人具シテ都ヲ出テ江州ノ

或里ニ行暮テ宿カルニ、惣テカスモノナシ。詮方ナク或小家ノ

アヤシケナルニ立寄テ、日モ暮ニケレハ押入テ夜ヲ明シ朝出ケ

ルヲ、主呼留テサシダシタルヲ見レハ、折敷ニ紙打敷テ稗ノ飯

ヲ置タリケル紙ニ何カ書付タルヲ見レハ、

数ならずいやしき草の実なれどもこれにそかくる露のいのちをト

侘人の命をかくる草の実ときけば涙の露そこほる

或藏人子ヲ山へ登セタリケリ。ミメ形宜敷児也ケルガ、里ヘ下

リタルニ寺法師スカシ（23ウ）取テ寺ニヲキケリ。山僧此由ヲ

聞テ、「口惜」トテ大衆憤リ置テ師匠ニ事ノ子細ヲ問ニ、「児共

ノ里ニ久ク候事常ノ習ト存ル也。三井寺ニ候ラン事ツヤヘ承

リ及ハズ。先ツ状ヲ遣テ見候ハシ」トテ、紙ト硯ヲ取寄テ斯ゾ

イハヤリケル。

山の端に待をばしらて月影のまことや三井の水にすむとは

寺法師是ヲ感シテ、「秀歌返事ナシ」トテ子細ナク山へ送リカ

ヘシケリトナリ。

鎌倉ニ或僧児、師怨ル事有テ他ノ僧房へ行ケルニ、諸道具取落

シタル中ニ詞華集ヲ忘レタリケルヲ見出シテ、送リ遺ストテ元

ノ師、

いかにして詞の花の残りけんうつろいはてし人の心に

其児此歌ニメデ又元ヘ帰リ、互ニワリナク侍リケリ。

或卿相石見ノ国ノ国司ニテ石見方ニテ遊ヒ玉ヒケルニ、国ノ習

ニテカツギスル海人共エモ（24オ）云レン歌ヲ唄ヒケルヲ、人々

「慰ニ召シテ唄ハセ聞シ召セカシ」ト申ケレハ、「サラバ召セ」

トテ召レケルニ、皆逃ケルヲ雜色トモ走リ廻テ少々トラヘテ参

リ、又酒ナンドヲ賜テ唄ハセケルニ、逃散タル海人トモ爰彼コ

ニ群リ居テ聞ケル中ニ、十七八斗ナル女ノミメ貌チ下郎ニモナ

ク宜敷見ヘケルカ、小侍ヲ一人招キヨセテ、「アノ御前ニ候歌

仕女共ニ斯申ヨシ伝テタビ給ヘ」トテ一首ノ歌ニ、

もろともにあさりシ者を浜千鳥いかに雲るにたちのぼるらん

此事ヲ披露シケルヲ上ニモ聞玉ヒテ、御感ノ余リニ紫ノ衣ヲ一

ト重ね給ヒケルヲ、

紫の雲の上着もなにかせんかつぎのみする海士の身なれば

ト申テカヒシ参セケレハ、イトゝ色マサツテ哀ニ思給テ、頓テ

召ニケリ。「都ヘ具シテ登ン」ト仰ラレケルヲ、父母ニ離ン事

ヲ歎キ申ケレハ、父母共ニ具シテ上リ給ヒテ御台所ト成テ（24ウ）君達アマタ出来、目出度カリケリ。人ノ心ハヤサシカリケ

ル者也。

後嵯峨ノ法皇ノ熊野詣有ケル時、伊勢ノ国ノ夫ノ中ニ、本宮ノ

音ナシ川ト云所ニ梅ノ花ノ盛ナルヲ見テ読ケル。

夫カ歌ニハイミシキ秀歌ナルヘシ。此事ヲ御下向ノ時道ニテ聞

シ召、北面ノ下郎ニ仰テ召レケリ。馬ニテアチコ打廻テ、

「本宮ニテ歌読ケル夫ハ何レゾ」ト問ケルニ、「是コソ件ノ夫

ニテ候へ」トソバニテ人申ケレハ、「仰也。參ヘシ」トイゝケレハ、返事ニ、

花ならは折てその間ふへきになりさがりたる身こそつられけ  
返事ニモ及バテヲメノトマリトマヨリ下テ具シテ参リヌ。珠ノ子細  
ヲ聞シメサレ、御感有テ「何事ニテモ所望申セ」ト仰下サル。  
「云甲斐ナキ身ニテ候へハ何事ノ所望カ（25オ）候ヘキ」ト申  
上ケレトモ、「ナド分ニ随フ所望ナカルヘキ」ト仰ケレハ、「母  
ニテ候者養程ノ御恩コソ所望ニ候ヘ」ト申上ケレバ、百姓也ケ  
ルヲ、彼所役公事御免有テ永代ヲ限テ子孫迄違乱有間敷由ノ御  
下シ文ヲ賜フ。百姓ノ子ナレトモ歌道ニ心ヲ入レ、斯ル目出度  
幸ニ逢モ歌ノ徳也。

鎌倉ノ大臣殿ノ歌ニ、

煩惱惡業ノ下ヘ引

なることをは己か葉風に任せつゝ心とさわぐ村雀かな

枯木ヲ雪ガト見レトモ唯己カ白キナリ。有ト思ヘハ有ニ似リ。  
道慶<sup>僧正</sup>ノ歌ナリ  
大納言為家卿、最愛ノ女ニ送レ玉フテ彼ノ孝養ノ願文ノ奥ニ、  
あわれげに同し煙の立そで残るおもひに身をこがすかな（25ウ）  
彼髮ヲ以梵字ヲ縫テ供養ノ願文ノ奥ニ、  
我涙かゝれとてしもなでさりし子の黒髪を見るそかなしき

○行基菩薩ノ御遺誠ノ文、淨土ニ有ラザレハ心ニ叶フ処ナク、  
聖衆ニ有サレハ思ニ隨フ伴ナシ。世ニ隨ハ望アルニ似リ。俗ニ  
背ケハ狂人ノ如シ。アナウノ世間ヤ。何ル處ニカ此身ヲ隠サン。  
口虎身ヲ害シ、舌劍命ヲ断ツ。口ヲシテ鼻ノ如クシメレハ、死  
シテ後モ咎ナシ。口ヲ守、心ヲ棲シテ身ニ犯ス事勿。如<sup>カ</sup>此行

フ者、世ヲ渡ル事ヲ得ト。

【人感ノ歌】

古鎌倉ノ右大將家、京ヨリアヤメト云ハシタ者ノ美人ナリケル  
ヲメシ下シテ隱シヲカレタリケルヲ、梶原三郎兵衛尉所望シテ  
見タリケレハ、同シ齡ノ十七八計ナル女ノ美ナルヲ十人裝束サ  
セテ并ベスヘヲキテ、「此中ニアヤメヲ見シリタラハ賜ヘシ」  
ト被<sup>カ</sup>仰ケレハ、見分ケ難クテ、（26オ）

薦草あさかの沼に茂りあへていづれあやめと引ぞわすらふ

トイゝタリケル時、アヤメ顔ヲ赤メテ袖ヲ引ツクロヒケルヲ見

テ、「アレコゾ」ト申テヤガテ<sup>頃朝</sup>賜リヌ。

和歌ハ忽持ノ義ニシテ陀羅尼也。故ニ鬼神モ感応シ玉フ。邪見

ノ者モ心和キケルハ歌ノ徳也。

【盜発起スル事】

洛陽ニ説経師有リケリ。一説ニ聖覺法印、一説ニハ清水ノ法師  
ト。施主ニ被<sup>カ</sup>招、布施物多ク貰テ夜陰ニ入テ帰リケルヲ、河  
原ニ盜共数多待カケテ、有程ノ者皆取ケリ。此僧思ヒケルハ、  
信心ノ施主、三宝ニ供養スル志ヲ以施物ニサゝグ。是ヲ以仏事  
ニモ用、利益有<sup>シ</sup>事ニ用ベキヨン思ニ、此賊共横サマニカスメ  
トリシ事、同盜トイゝ乍ラ珠ニ罪業重クシテ悪道ニ入ナントス  
ル事、悲ク哀ニ覺テ、我難ニアヘル事ヲハ忘テ心ヲスマシ声打  
上テ曰「何ソ電光朝露ノ小時ノ此身ノ為ニ、阿僧祇耶長時ノ苦  
因（26ウ）ヲ造ントス」ト大音ニテ三返詠シケルヲ、心ハ知ラ  
ネトモ何トナク貴ク覺テ、此盜身ノ毛モヨダチテ、「是程ノ難  
ニ逢玉ヒテ、何事ヲ御心ヲスマシテ斯仰候ゾ。抑是ハ何ト云心

ニテ候ゾ。心肝ニソミテ尊ク覚ヘ候トイケレハ、此僧本ヨリ弁舌ノ人也ケレハ、生死無常ノ道理ヨリ申立テ、「一期ハ夢幻シノ如シ。電光朝露ニコトナラズ。因果ノ道理遁レ難ク、苦樂ノ報ヲウク。三宝ノ物ヲカスメ取テ、妻子ヲ養ヒ身命ヲツガントスル。凡夫ノ習ト云乍ラ愚也。罪ナクシテ世ヲ渡ル業ヲ、カルニ、斯ル大罪ヲ作テ地獄ニ落テ無量劫ノ苦ヲ受ン事ノ悲サニ、吾身ノ事ハ忘テ斯云也」ト泣々申サレケレハ、此盜モ袖ヲシボツテサリヌ。扱其次ノ日ノ夕方、月代アル入道此坊ニ来テ蜜ニ申入ケルハ、「昨晚ノ強盜入道ニ成テ參テ候。夕ベノ御説法ニ発心シテ、同類ノ悪党共アマタ入道ニ成テ候」トテ髣髴ヲ持來レリ。「事々シク候ヘハ、皆ハ引連不レ申候」トテ、「是ハ昨晩取(27オ)處ノ布施物皆返シ奉リ候」トイシ。是眞実ノ心ヨリ仏法ノ道理ヲイ、聞セル故ニ、斯ル悪人モ発心シケル事、難有事トモナリ。

### 【玄奘渡天ノ事】

玄奘三藏天竺ニ渡テ仏法ヲ漢土ヘ伝ントシ玉ヒケルニ、邪神ヲ祭ル國ヲ過玉フニ、彼國ノ者三藏ヲ取テ神ヲ祭ントス。ミメ形世ニ勝レタル人ヲ取ア牲ニスル習ナルニ、三藏ミメ形勝レテ見ヘ玉ヒケレハ國ノ者悦デトロヘケルニ、仏法弘通ノ志ヲ延玉ヘトモ本ヨリ仏法ヲ信セザレハ用ズ。弟子ノ僧トモ「師ニ替シ」トイヘトモ、形三藏ニ及ザレハユルサズ。既ニ三藏ヲマナ板ニフセ奉リ切碎クヘキヨソラヒヲ見テ、「時ノ程ノ暇ヲ得サセヨ。觀念セン」トテ、其間ニ入定シテ都卒ノ内院ヘ參テ弥勒ヲ拝シ玉フ。其間ニ俄ニ大風震動雷電鴨シカリケレハ、「神ノウケ玉ハヌニコソ」トテ、諸人大ニ恐レラノハク。三藏入定ノ間

ナレハ是モ知リ玉ハズ。定ヨリ立テ「今ハトクヘ」トノ玉ヘハ、諸人恐入テ頭ヲ扣テ過ヲ懺悔シ、「吾等ヲ助ケ玉ヘ」トシボツテサリヌ。扱其次ノ日ノ夕方、月代アル入道此坊ニ来テ蜜ニ申入ケルハ、「昨晚ノ強盜入道ニ成テ參テ候。夕ベノ御説法ニ発心シテ、同類ノ悪党共アマタ入道ニ成テ候」トテ髣髴ヲ持來レリ。「事々シク候ヘハ、皆ハ引連不レ申候」トテ、「是ハ昨晩取(27オ)處ノ布施物皆返シ奉リ候」トイシ。是眞実ノ心ヨリ仏法ノ道理ヲイ、聞セル故ニ、斯ル悪人モ発心シケル事、難有事トモナリ。

電光朝露ノ小時ノ此身ノ為ニ、阿僧祇耶長時ノ苦因ヲ造ン。一期ノ身命ハ露ノ如ク電光ノ如シ。永劫ノ苦因ヲ作テ長夜ノ苦果ヲ受ン事ノ悲サヤ。眞実ニ妙ナル仏法ヲ信セスシテ、鬼神ヲアカメテ悪道ニ沈ン事愚也。適々人身ヲ受乍ラ仏法ノ道理ヲ弁ヘザル事、悲敷事也」ト智惠深ク慈悲ナル三藏、イミジク説玉ヒケレハ、國ノ者皆発心シテ邪神ニ仕ル事ヲヤメテ仏ノ弟子ト也、五戒三帰ヲ受ント也。

哀ナル哉。万劫ニ一度得タル人身ヲ徒ニ捨、多生ニ希ニ逢ル仏法ヲ信シ行セサル事。然間、流転生死ノ業因ハ、ナセトモノアキタラズシテ是ヲ愛シ、出離解脱ノ方便ハ、教レトモノウトクシシテ且テ進マズ。人間忽タトシテ日月ノ過ルモ覺ヘズ。世事忙々トシテ身命ノツヽマルヲモ弁ヘズ。無戲論ニ、日ヲ暮シ無益ノ雜談ニ暇ヲ入可レ惜。三塗ノ旧里ニ(28オ)帰リハ難ノ陥阻ニ迷シ事ヲ。

○正法念經曰、名利ノ心ナクシテ利他ノ思ニ住シテ法ヲ説ハ上品ノ法施、勝他ノ心ニテ説ハ中品ノ法施也。名利ノ為ニ説ハ下品ノ法施也。天上ノ智恵ノ鳥ト成テ法音ヲ轉ルトイヘリ。

### 【袈裟ノ功德ノ事】

去ル文永七年七月十七日、尾張ノ国下津ノ宿ニ雷落テ、道行馬三四カ損シテ小家ニ走リ入テアリケルニ、帷ニ袈裟ヲ掛テ双六振テ居タル法師ノ背ニカキ上テアリケルニ、帷ヲハ散々ニカキサギテアレトモ、袈裟ハ少モ損セズトカヤ。十輪經、悲花經

大悲經、心地觀經等ニ、袈裟ノ功德委ク説ケリ。但シ經ノ中ニハ如法ノ袈裟ニ取テ功德アリ。世間ノ小袈裟如法ナラズ。然ニ此徳アリ。是モ大集經ニハ袈裟ノカタハジトイヘリ。身ニ帶シヌレハ、大海ヲ渡ルニ毒龍等ノ難ナシ。龍宮ノ門ニハ袈裟ヲ置テ金翅鳥ノ難ヲ免ル。舍利ヲモ崇ル事同ジ。(28ウ) 袈裟四寸ヲモ持バ、軍ノ中ニシテ難ナシトモイヘリ。十輪經ニハ、或國王、比丘ノ非法アルニ依テ是ヲ縛テ鬼神ノアル嶋ヘ流シ遣ス。鬼神共集テ食セントスルニ、母餓鬼ガ曰「是ハ仏弟子也。赤キ袈裟ヲ掛タリ。」掛乍ラ縛テアルヲ見テ、「我聞、袈裟ヲ掛ル程ノ者ハ必ス解脱ノ期有テ仏トナル。争カ是ヲ犯シ」トテ偈ヲ説テ、子供餓テ食セントスルヲ制シ、繩ヲトキテ是ヲ守テ糞ヲ拾テ養フ。七日過テ王ノ使行テ見ルニ、命絶ズ色衰ヘズ。事ノ次第ヲ聞テ王ニ奏スルニ、「鬼類ナヲ袈裟ノ徳ヲ敬ヒ、仏弟子ヲ貴ブ。人倫トシテ信敬ノ心ナカラシヤ」トテ、過ヲ懺悔シテ召返シテ崇メ玉ヘリ。

昔堅誓子ト云テ金色ノ文アル師子アリケリ。獅師有テ此獅子ヲ取テ皮ヲハギテ王ニ奉ント思ニ、此師子男子ダニモ見レハニケカクル。僧ニハ近付テラジズ。是ヲ見テ猶師俄ニ法師ニナツテ、毒ノ弓矢ヲ袈裟ノ内ニ隠シテ、或時彼師子ノ元ヘヨルニ、僧ノ形ヲ(29オ)見テナツカシゲニ尾ヲ振テヨル処ヲ、矢ヲヌキ出シテ是ヲ射ル。師子、猶師也ケリト知テ食ント思フ。又思ハク「袈裟ヲカクル程ノ者ハ、タトヒ心中ニ善心ナクトモ此縁終ニ仏ニナルヘシ。其形仏子ニ似リ。争カ害スベキ」ト思テ、忍ニテ文ヲ誦シテ死ニ終リス。又是釈迦ノ因行也。花色比丘尼、タハムレニ袈裟ヲ掛タリシ因縁ニ、終ニ羅漢ノ果ヲ得タリ。

又南山大師ニ威陀將軍語リ玉ヘル事アリ。「漢土ノ僧ハ天竺ヨリ慚愧ノ心アリ。隠シテ非ヲナセトモ、慚愧ノ心有ル故ニ其百ノ非ヲ忘テ一ツノ徳モアレハ、諸天是ヲ守ル。仏勅ヲ請テ人間ニ下テ仏法ヲ聞、仏弟子ヲ守ル。人間ノ臭事、上四十万里也。諸天ハ清淨也ト雖、忍テ下ル。犯戒ノ人ヲハ魔ニ犯サシメントテ、泣々是ヲ守ル」トイヘリ。人ノ親ノ慈悲、子ヲ哀ムモ、過ヲ忘テ少ノ徳アレハ是ヲ愛ス。仏弟子モ、非アレトモ袈裟ヲモカケ、何レノ仏法ニモ功ヲ入レハ、冥衆捨玉ハズ。遠キ益ヲ見テ近キ咎ヲ忘テ守護シ玉フ。俗ハ一旦ノ過チ(29ウ)ヲ見テ是ヲ誹レバ、蒺藜ノ如ク身ヲヤブル。經ノ中ニ、金ノナキ時ハ銀カ宝、銀ノナキ時ハ銅ヲ宝トシ、乃至白鐵迄モ宝トス。持戒ノ比丘無ン国ニハ、有戒無戒ヲエラハス形ノ似ルヲ崇ムベシト見ヘタリ。実ニ如法ノ僧ハ希ナルヘシ。

### 〔樹神タゝル事〕

尾張ノ國中嶋ト云処ニ、遁世ノ上人寺ヲ建立シテ僧五六人モスミ、如法ノ衣鉢ナント帶シ侍リ。其處ニ古木ノ大ナルヲ造當ノ為ニキリケルニ、寺近キ在家人ニ樹神付テ申ケルハ「我等ハ此樹ヲコソ家ト頼ミ住ニ、情ケナク僧ノ伐リ玉ヘル、淺間敷事也。制シ參セテタヘ」ト云。「僧ニコソ付テモ崇リモセメ。余処ノ者ヲ斯責ヘキ様ヤアル」トイヘハ、「我等ハ僧ノ袈裟衣ノ風ニモアタリ、御經ノ聞ヲモ聞テコソ苦患モマヌカル事ナレ。僧ヲバ争カ惱シ奉ン。唯斯申テタベ」ト云ケレハ、僧聞テキリ残シケリ。此事不レ久シ。一旦ノ過ヲ誹テ長時ノ苦ヲウクベカラス。袈裟ヲカクル程ノ者ハ、弥勒仏ヨリ後打続テ、仏出世(30オ)有シニ得道スヘシ。イカニサガルトモ、現在ノ千仏ノ後ノ樓至

仏ノ時ハ、一人モ不残得道スヘシト経文分明也。仰テ信ズヘシ。弘法大師ノ曰「殺盜ヲ行ズル者ハ現ニ衣食ノ利ヲ得、人ヲ謗シ法ヲ謗ルハ、己ニ於テ何ノ益カアル」ト宣ヘリ。能々可弁。

### 【正直ノ事】

唐土ノ育王山ニ、或僧二人布施ヲ争テ喧嘩ヲシケレハ、其寺ノ長老大覚ノ連和尚、此僧ヲハジシメテ曰「或俗他人ノ金ヲ百両預リ置ケリ。彼ノ主死シテ後、其子ニ是ヲ与フ。子是ヲ取ズ。親ニ二与ヘズシテ其許ニ預置事ナレハ、其許ノ者也」ト云。彼俗、『我ハ預リタル計リ、譲リ貰タルニハ非ス。親ノ者ハ子ノ者也』トテ又返シケリ。互ニ争テ取ラズ。ハテハ官ニ出テ判斷ヲ受ルニ、『共ニ賢人ナリ。云處アレトモ、寺ヘ上テ亡者ノ菩提ヲ訪ヘ』ト判ス。世俗スラ利養ヲ貪ラス。況ヤ出家ノ沙門、何ソ世財ヲ争ン』トテ、法ニ任テ寺ヲ追出シケリ。末代ノ習、在家ノ富貴ナルハ着モ薄ク信モアリ礼モアリ。出家ノ貪賤ナルハ（30ウ）貪欲深ク智モナク徳モナシ。或ハ布施ヲ思テ導師ヲノゾミ、或ハ祈禱ヲ事トシテ財産ヲ望ム。利養恭敬ヲ心トスル故ニ、釀氏ノ風義ニ背キ出家ノ儀ヲカク。

### 【行者果報ニ引ベシ】

武州ニユタカナル地頭アリ。前世ノ因縁ニヤ、福徳ノアルウヘ、慈悲深ク芳心アル人也。近處ノ地頭、不如意ニシテ所領年々ニ

ウリケルヲ、度々ニ皆買トリケリ。扱彼地頭次第ニ衰ヘ終ニ身マカリケリ。唯一リ有ケル地頭息子財宝モ處領モナケレハ、讓ル者モナク、マドヒ者ニナリ、一門広キ者ナレハ爰彼コアルキテ命ヲツナギケリ。親類モ何モ小名ナレハ、哀ミ乍ラ是非モナク、サスガニ見ルモ不悔ニ思ヒ、一門ノ者共寄合テ申談ジケ

ルハ、「某ノ子息マドヒ果テ、侍リケル事、不悔ノ次第也。彼ノ親ノ處領貰タル人ハ、芳心モアリ慈悲モ深シ。世間不定ナケレハ、各列参シテ屋敷一ヶ處モ貰テトラセバヤ」ト。「然ルヘシ」トテ、一門集リ行。主ニ対面シテ酒ナント持参シテ進メケリ。「扱可申事候テ一門列座仕候」ト云。「何条ノ事ニカ」（31オ）ト云。「去レハ某ト云者ハ各カ一門ニテ候シガ、世間不調法ニテ譲ノ所領悉ク沽却仕リ、此方ニメサレ候トコソ承リ候ヘ。彼ノ子息ノ一人候ガマドヒ者ニテ候ヲ、不悔ニ存候ヘトモ、吾々カ身モ云甲斐ナク候マゝ、助ル事及候ハズ。願ハ、親ノカタミニモ彼ノ處領ノ中ニ屋敷一処思召有テ与ヘ玉ヒナヤ。各々御恩ヲ蒙リ度コソ存候」ト云ニ、「其殿ハ何国ニ在スゾ」ト問ニ、「是ニ相具シテ参テ候ヘトモ、便宜ヲ窺テツレズ」トイヘバ「イカニ是ヘコソ御ツレ玉ヘ。相計ヒ申ベシ」ト頼母敷云ケル。扱呼入テ酒ヲ勧メ、「引出物參セン」トテ、度々ニ買取タル証文ヲ皆トラセテ、「乍レ恐子息トコソ頼ミ奉ン」ト云ケレハ、余リ思モヨラヌ事ニテアキレテゾ有ケル。「是程ノ御計ハ思モヨリ候ハズ」トテ、各々悦デ帰リヌ。扱彼子息、親共主共一ト筋ニ頼入テ、當時ニ有トナン。末代ニモ是程ノナサケ有人承リ及ハス。珍敷事也。

### 【母ニ孝ノ事】

鎌倉ノ西明寺殿ノ時分、女房有シガ常住腹立ケル女也。或時成長ノ息（31ウ）子ツカフマツツケルニ、聊ノ事ニ依テ腹ヲ立、打ントシケル程ニ物ニケツマズキテイタク倒レケレハ、弥々腹ヲスヘカネテ上ヘ訴ヘ、「息子ワラハヲ打テ侍ル」ト訴ヘケレハ、「不思議事也」トテ、彼ノ息子ヲ召テ、「実ニ母ヲ打タルニ

ヤ。母シカ「ト申也」ト問ル。「実ニ打テ待ル」ト申。禪門、  
「返スノ奇怪也。不当也」トシカツテ、處領ヲ召、流罪ニ定  
リニケリ。事ニガシクシケル上、母モ漸ク出淺間敷覚へ、  
母又禪門ニ申ケルハ「腹ノ立保ニ息子吾ヲ打タリト申上侍リツ  
レトモ、実ハサル事ニ候ハズ。ヲトナゲナク彼ヲ打ントシテ倒  
レ侍ル。子タニコソ申候ヒツレ。御勘当候ン事ハ免サセ玉ヘ」  
トテ、ケシカラズ打涙申ケレハ、「サラハ召セ」トテ子細ヲ尋  
ラル。「実ニハ争カ母ヲ打候ベキ」ト申。「扱ハナド始メヨリ有  
ノ保ニ申ザリケル」ト禪門被申ケレハ、「母カ打タリト申ン上  
ハ、吾身コソ咎ニモ沈ミ候ハメ。母ヲ虚談ノ者ニハ如何ナシ候  
ヘキゾ」ト申ケレハ、「イミジキ至孝ノ志深キ者也」トテ大ニ  
感シ、別ノ處領ヲ添テ(32オ)給ハリ、珠ニ不便ノ者ニ思ハレ  
ケリ。

### 【盲母ヲ養童事】

南都春乗坊、東大寺ノ大仏殿造立ノ為ニ安藝周訪両国ノ山ニテ  
杣作リサセケルニ、其間ノ食物ノ俵多ク打積テ置タリケルヲ、  
或時俵ヲ一俵盗テ逃ル者ヲ見付テカラメケルニ、瘦ガレタル童  
也。春乗坊、「イカナル者ニテカスル不当ノ業ヲシ、仏物ヲ犯  
スゾ」ト問レケレバ、童申ケルハ「云甲斐ナキ貧キ者ニテ、過  
ワビ侍ル上、盲目ナル老母一人候ヲ、薪ヲ取テ遙カナル里ニ出  
テ売、養ハゴクミ候ヘトモ、身モ疲レ力ラモ尽テ、ハカシシ  
ク助ケ心易ク過ル程モ候ハネハ、此杣ノ食ハ多クモ候事ナレハ、  
御事モカケズ尽ル事モアラジト思テ、小分盗テ母ヲ助ケバヤト  
思フ計ニテ候。斯ル不当ヲ仕テ恥ヲサラシ候コソ、先業迄モ今  
更恥敷、口惜ク覚ヘ侍レ」トテ、サメシトナキケレハ、上人

モ珠ノ子細哀ニ思ハレケレド、実否ヲ知ン為ニ此童ヲハ召置  
テ、使ヲ(32ウ)以童カ申状ニ付テ母カ居処ヲ尋ニ遣シケリ。  
使尋行テ見レハ、山ノ麓ニ小庵アリ。人音聞ヘケレハ立ヨリ  
テ、「何ナル人ゾ」ト問ニ、内ニ答ヘケルハ「ワビ者ノ盲目ニ  
テ侍ルガ、スキワビテ此山ノ麓ニ住デ、薪ヲ取テ里ニ出テハゴ  
クム息子ノ童ノ候ガ、昨日出候ヒシ保ニ、露ノ命モサスガニ消  
ヤラデ侍リ。此童帰リ侍ラネバ、無レ覚束、無レ心元テ、人ノヲ  
トサヘスレバ、此童ニヤト思候ヘハアラヌ人ニコソ」ト云。使  
急キ帰テ上人ニ此由ヲ申ケレハ、「童カ詞タガハザリケリ」ト  
テ、哀ニ思ハレケレハ、母ヲ養ル程ノ食物ヲタビケリ。扱仏物  
ナレハ徒ニ与ンモ恐有トテ、杣作ノ間ハ童ヲハ召ツカハレケリ。  
仕業ハ不当ナレトモ、孝養ノ心ハ実ニ難レ有ケレハ、可然三宝  
ノ御恵ミニヤ、母ヲ養程ノ食物ニアタリケリ。

### 【僧殺生シテ母孝ノ事】

白河院ノ御時、天下ニ殺生禁断セラレテ、自ラ犯ス者アレハ重  
キ過ニアタリケルコロ、或山寺ノ法師、母ノ年タケテ世間貧キ  
ガ物モ食ス煩ヒケルガ、魚ナンドナキ外ハ物ヲ(33オ)食ズ。  
世間ニ売買又事ナレバ、イカニスヘシトモ覚ヘズ。忽ニ母ノ命  
タヘナン事悲敷覚ヘケル保ニ、心ノ行方ト袈裟衣ヲ着乍ラ玉ダ  
スキシテ、カツラ川ニテ取モ習ハヌ魚ヲ取ントスルニ、可然事  
ニテヤ、少々トリ得タリケルヲ役人ニ見付ラレテ引立、院ノ御  
所ヘ具シテ参リニケリ。天下ノ殺生禁断其隠レナキ上、法師ノ  
身トシテ袈裟衣ヲ着乍ラ此惡行ヲ企ル事返スノ不届也トテ、  
重キ咎ニ行ルベキヲ、此僧申ケルハ「老母カ命ヲ助テ暫クモヤ  
スメ候ハント思テ、我身ハ如何ナル咎ニモ行レ候ヘ。母カ命シ

バシモノビン事、本意ニ存候。此魚ハ今ハ助ル間敷ニ候ヘハ、  
是ヲ母カ元ヘ遣シ候テ、一ト口モ物食テ候ハソ承テ、イカナ  
ル御イマシメニモアタリ候ハ、本ヨリ存儲タル事也、怨ハ候  
マジ」ト奏シテ涙ヲ流シケレハ、珠ノ体哀ニ思召テ、母ヲ養程  
ノ物不足ナク給ハテ免サレケリ。(一行アキ)(33ウ)

【母愚痴ニ依テ馬ニ生ルゝ事】

洛陽ニ貧キ母ト娘ト有テ、住ワビテ縁ニ付テ越後ノ国ニ下リ世  
ヲ渡リケルニ、生レ付タル業ナレハ貧テスゴシケル。京ノ者ニ  
テ念仏者ノ男有ケルニ、此息女カタラヒテ住ケルガ、余リニ心  
安カラヌ俟ニ、此男申ケルハ「都ニテハトテモ角テモ住ヨカル  
ベシ」トテ、京ヘサソヒケル。此娘母ニ離ン事ヲ歎キ、初メハ  
用ザリケレトモ、度々勧メラレケルマゝ、母ノ尼公ニ「出シ共々  
具シテ登ン」ト申ヲ、母申ケルハ「実ニ貧クトモ一ソニソイテ  
コソ侍ルベケレ。乍去一トリノモ心安テコソ有度者ナレバ、  
我ハ行マジ」ト。娘モ夫ニツレル身ノ上ナレハ、無是非、泣々  
別ヲ悲ミ乍ラ、母於テ京ヘ登リケリ。京ニ相住ケル程ニ、田舎  
ヘ便リモナカリケレハ、互ニ音信ル事モナク、朝暮母ノ事ヲ申  
テゾナキケル。去程ニ清水寺ニ詣テ、「母ノ事、世ニ有トモナ  
キトモ示シ玉ヘ」ト祈リ申ケリ。日数積テ感心不レ空、告玉フ  
ハ「汝カ母ハ別テ後、汝ニ離タル事ヲ歎キシ程ニ、煩付テ幾程  
ナク死セリ。筑紫ノ人ノ某ト云者ノ元ニ栗毛ノ駄馬ニ生レテ當  
時京ニアリ。宿處ハシ(34オ)カノノ処也」ト示シ玉フテ、  
夢醒テ頓テ彼ノ宿處ヲ尋ネツ、  
「是ニハ何ナル人ノオハスル  
ゾ」ト問ヘハ、「筑紫ノ人ノ宿也」ト云。  
「刲栗毛ノ馬候ヤ」ト  
問ニ、「有」ト答フ。  
「然ハ夫ヲ見候ハシ」ト云。主アヤシンデ

宿ニテ追付テ帰ル程ニ、此馬俄ニ虫ヤミテ其夜死ケリ。使浅間  
敷思テ馬ノ頭ヲ切テ登ル。女ハ馬ノ食物ナント拵ヘ日ヲ數テ待  
ケル程ニ、空敷頭計ヲ以テ上リタリ。是ヲ見テ、彼女馬ノ頭ニ  
袖ヲ打覆テ音モシズマラズ涙悲ム事限リナシ。是ヲ見聞スル人  
袂ヲシボリ、扱此馬ノ頭ヲ袖ニ包ミ帰テ墓ニツキ、種々ノ孝養  
ヲゾシケル。人ノ親ノ子ヲ思フ愚痴ノ愛執ヨリ畜生道ヘ落ケル  
事、可怨可悲。乍去娘カ孝養最モ深キ事コソ難有ケレ。梵網經  
ニハ、一切ノ男子ハ(34ウ)皆吾父也、一切ノ女人ハ是レ吾母  
也ト説玉フ。六道ノ衆生ハ皆吾父母也、兄弟ナリ。

【親ノ肉ヲ食フ事】

唐土ノ国清寺ニ拾得トイシハ、豊干禪師ノ弟子也。或在家ノ人  
客人ヲモテナサントテ、禪師ニ申シテ拾得ヲ呼テ通ヒナンドサ  
セケルニ、寒山モ共ナヒテ行ケリ。扱酒ヲ飲肉ヲ食テ樂ミ遊ビ  
ケルヲ、寒山拾得二人傍ニシテケシカラヌ笑ケレハ、主モ客人  
モ興醒テゾシ覺ケル。主其後禪師ニ此由ヲ申ケレハ、禪師拾得ヲ  
呼デ、「如何ナル事ニテ笑フヤ」ト諫ラレケレハ、「争カ笑ヒ候  
ベキ。彼カ先生ノ親共、痴愛ノ因縁ニテ畜生ノ身ヲ受テ今食物  
トナレルヲ、親カ肉トモ知ラズシテ是ヲ愛シ遊ヒタハムレ樂ム  
事、余リニ悲ク覺ヘケレハ、寒山トトモニ此事ヲ云テ歎キ侍リ  
シヲ、彼等カ拙キ眼ニテハ笑ト見テ侍ル也」ト申ケル。知ルト  
知ラヌト近キト遠キトコソアレ、イハゝ皆父母ヲ害シ食スルニ  
コソ。(一行アキ)(35オ)

【野干法ヲ悦事僧ヲ輕ル事】

○仏法ヲ信セんニハ先弘通ノ人ヲ崇ムヘシ。相ヲ取テイヤシミ、失ヲ見テ輕シムベカラズ。智論ニハ、犬ノ皮ノ袋ノ臭キニ包メル金ヲハ、袋ノ臭ニ由テスツベカラス。タトヒ僧ハ破戒也トモ、読処ノ法真実ナラハ、信シテ人ノ失ヲタゞサジトイヘリ。過去ニ仏出世ナキ時、仏法ノ名字モ聞ザリケル時、宿命智有テ、証リ深キ野干有。師子ニ追レテ逃走リケルガ深キ穴ノ中へ落入テ、出ヘキ力ラナクシテ日数ヲ経テ思ケルハ、徒ニ捨ル命ヲ同ハ師子ニ与ヘキ者ヲヤ。慈悲モナクシテ危キ身ヲ惜デ他ニ施事ヲ悔ミ、「南無三世ノ諸仏、此心ヲ照シ玉ヘ」トイケレハ、此声切利天へ聞ヘ、帝釈驚テ声ヲ尋テ無数ノ諸天ト共ニ下り見玉ヒケレハ、穴ノ中ニ野干ノ声也。刲様々ノ事トモサカシク申ケレハ、「汝法ヲ説」ト帝釈申給ニ、野干ノ曰「三十三天ノ主トシテ礼儀ナク軌則モ知リ玉ハヌ者哉。法水ハ下ヘコソ流ルレ。師ハ下ニ、弟子ハ上ニシテイカゝ法ヲ説ン」ト云。帝釈恥驚テ、天衣ヲカサツテ高座（35ウ）ヲ儲ケ、其上ニシテ法ヲ説シム。諸天聞テ益ヲ得タリ。天帝野干ヲ敬ヒ玉フ。近代ハ在家ノ実ニ仏法ヲ喜者ナケレハ、僧ヲ敬事希也。出家モ又法ノ如ニ振舞ヒ、釈門ノ義ヲ存ル者希ナレハ、反テ在家ヲ敬ヒ仏法ヲ輕シメ、利養ヲ重シテヘツロフ。経ノ中ニ、白衣ハ高座ニヲキ、出家ハ地ニ立テ法ヲ説ハ、法滅ノ相ト也。当今ハ是ニ違ナシ。

右沙石集五六ノ巻終